平成３０年度

（２０１８年度）

社会福祉法人　東蒲原福祉会

事　業　報　告　書

東　蒲　の　里

東蒲の里みかわ園

ど　ん　ぐ　り

目　　次

Ⅰ　平成３０年度社会福祉法人東蒲原福祉会

法人事務局　事業報告

	頁
１．　入職･離職状況	１
２．　人員構成	１
３．　法人委員会開催状況	
３－１．組織強化チーム	２
３－２．サービス管理向上チーム	３
３－３．スキルアップチーム	５
４．　東蒲原福祉会研修報告	７

1　入職・離職状況

1．平成 30 年度入職・離職状況（常勤 8 時間職員対象）

名称	法人全体		法人本部		東蒲の里（とこなみ含む）		みかわ園		どんぐり	
職員数（4 月 1 日）	132 人		4 人		48 人		40 人		40 人	
	入 職	離 職	入 職	離 職	入 職	離 職	入 職	離 職	入 職	離 職
4 月	5	0	1	0	3	0	0	0	1	0
5 月	1	2	0	0	0	0	1	2	0	0
6 月	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0
7 月	3	0	0	0	2	0	1	0	0	0
8 月	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0
9 月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10 月	4	1	1	1	1	0	2	0	0	0
11 月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
12 月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1 月	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
2 月	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0
3 月	0	5	0	0	0	2	0	0	0	3
合計	14	11	2	2	6	2	4	3	2	4
入職率	10.61%		50.00%		12.50%		10.00%		5.00%	
離職率	8.33%		50.00%		4.17%		7.50%		10.00%	

※　平成 29 年度の法人全体の入職率 25.19%（33 人）、離職率 6.10%（8 人）

【計算式】

入職率＝増加労働者数÷年初の全労働者数×100

離職率＝減少労働者数÷年初の全労働者数×100

【参　考】

平成 29 年度の介護業界全国平均離職率 16.2%

2　人員構成

1．平成 30 年度事業所別・雇用形態別職員数（平成 31 年 3 月 31 日現在）

雇用形態	法人全体	法人本部	東蒲の里	みかわ園	どんぐり
職員	135 人	4 人	50 人	41 人	40 人
臨時的採用職員	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
パート職員	58 人	4 人	18 人	19 人	17 人
再雇用職員	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
登録ヘルパー	12 人	0 人	0 人	0 人	12 人
合計	205 人	8 人	68 人	60 人	69 人

３－１　組織強化チーム

１．委員会開催状況

開催日	協　議　事　項　等
5 月 31 日	○平成３０年度事業計画について
6 月 28 日	○現行制度の課題整理について ○見直しのスケジュールについて
10 月 17 日	○現行制度の見直しに関する検討方法について ○組織強化チームの検討課題について
12 月 21 日	＜ワーキングチーム＞ ○人事考課制度の見直し案について ○職員の負担軽減と業務改善について
10 月 21 日	○人事考課制度の見直し案について ○職員の負担軽減と業務改善について
1 月 18 日	○人事考課制度における職員の目標設定について

２．結果及び課題

（１）人事考課制度について

・平成３０年度は、人事考課制度の見直しについて検討を行う中で、理事や監事よりいただいた意見をもとに、大幅な制度の見直しは行わず、職員一人ひとりが目標を意識することと目標に沿った職員指導に着眼点を置いた制度となる取組を行った。
次年度より、職員一人ひとりに目標を設定してもらい、それに基づいた職員評価について検討を継続することとした。

（２）組織の効率化に関する取組み

・今年度の会議で職員の負担軽減について理事、監事より意見をいただきながら、負担の軽減を図りながら業務の効率を図るかという議論になった。
結果として、組織強化チームの提案として研修の開催方法について法人に提案することができた。

（３）今後の取組について

・次年度も人事考課制度の見直しについて検討を継続するとともに、組織強化のために組織の効率化についても検討を継続していきたい。

３－２　サービス管理向上チーム

１．委員会開催状況

開催日	協議事項
4 月 27 日 （ワーキング）	○平成２９年度活動報告及び平成３０年度事業取り組み検討 ・平成２９年度事業報告 ・平成３０年度事業計画
5 月 25 日 （全体会）	○各施設におけるＱＣサークル活動の進捗状況（１回目） ・東蒲の里：テーマ「デイサービスカウンタの整理整頓について」 ・東蒲の里みかわ園：テーマ「業務効率化について」 ・どんぐり：テーマ「短期入所のレクリエーションの実施について」 ・とうかん福祉サービス：テーマ「ひやりハット、事故報告について」
7 月 27 日 （ワーキング）	○各施設における平成２９年度ＱＣサークル活動の継続状況 ・東蒲の里：テーマ「居室の整理整頓について」 ・東蒲の里みかわ園：テーマ「短期入所の忘れ物の削減について」 ・とうかん福祉サービス：テーマ「時間外勤務時間の削減について」 ○各施設におけるＱＣサークル活動の進捗状況（２回目） ・東蒲の里：テーマ「デイサービスカウンタの整理整頓について」 ・東蒲の里みかわ園：テーマ「業務効率化について」 ・とうかん福祉サービス：テーマ「ひやりハット、事故報告について」
9 月 28 日 （ワーキング）	○各施設におけるＱＣサークル活動の進捗状況（３回目） ・東蒲の里：テーマ「デイサービスカウンタの整理整頓について」 ・東蒲の里みかわ園：テーマ「業務効率化について」 ・どんぐり：テーマ「短期入所のレクリエーションの実施について」 ・とうかん福祉サービス：テーマ「ひやりハット、事故報告について」
11 月 22 日 （ワーキング）	○各施設におけるＱＣサークル活動の進捗状況（４回目） ・東蒲の里：テーマ「デイサービスカウンタの整理整頓について」 ・東蒲の里みかわ園：テーマ「業務効率化について」 ・どんぐり：テーマ「短期入所のレクリエーションの実施について」 ・とうかん福祉サービス：テーマ「ひやりハット、事故報告について」
1 月 25 日 （ワーキング）	○各施設におけるＱＣサークル活動の進捗状況（５回目） ・東蒲の里：テーマ「デイサービスカウンタの整理整頓について」 ・東蒲の里みかわ園：テーマ「業務効率化について」 ・どんぐり：テーマ「短期入所のレクリエーションの実施について」 ・とうかん福祉サービス：テーマ「ひやりハット、事故報告について」
2 月 22 日 （全体会）	○各施設におけるＱＣサークル活動の進捗状況（６回目）と平成３１年度事業計画 ・東蒲の里：テーマ「デイサービスカウンタの整理整頓について」 ・東蒲の里みかわ園：テーマ「業務効率化について」 ・どんぐり：テーマ「短期入所のレクリエーションの実施について」 ・とうかん福祉サービス：テーマ「ひやりハット、事故報告について」 ・平成３１年度事業計画

２．結果及び課題

（１）各施設におけるＱＣ活動について

・各施設において、課題解決に向けて、「現状把握」、「課題の分析」、「対策の立案・実施」、「効果の確認」の４ステップを段階的に行った。
各施設において、効果的な改善策を実施し、課題解決することができた。
進行状況を確認する中で、各施設によって、進行状況の違い、改善したいことが伝わらないことが見られた。

（２）今後の取り組みについて

・各施設におけるＱＣ活動のばらつきを無くすため、各ステップのスケジュールとガイドラインを定める。

３－３　スキルアップチーム

１．委員会開催状況

開催日	協議事項等
5 月 16 日	○平成 30 年度の各種研修について ・ケアセンターどんぐりの研修予定 ・新任研修体系のフォローについて ○平成 30 年度各種研修の担当について ○新職員研修体系について実績報告
5 月 23 日	○平成 29 年度の報告について ○平成 30 年度研修計画について ・新任職員研修について
6 月 20 日	○平成 30 年度研修について ○ケアセンターどんぐり職員の研修体系への振り分けについて
7 月 18 日	○ケアセンターどんぐり職員の研修体系への振り分けについて ○同業種研修・異業種研修について
9 月 19 日	○平成 30 年度異業種研修について ○平成 30 年度同業種研修について ○ケアセンターどんぐり職員研修の進捗状況
10 月 24 日	○平成 30 年度上半期の報告について ○平成 30 年度下半期の計画について
11 月 21 日	○平成 30 年度上半期の報告について ・新任職員研修について ・ケアセンターどんぐり職員への新任研修について ○平成 30 年度下半期の計画について ・異業種研修・同業種研修・5 年目振り返り研修・指導力向上研修
12 月 19 日	○平成 30 年度研修実施報告について ○平成 31 年度研修計画について
1 月 24 日	○平成 30 年度研修実施報告について ○平成 31 年度研修計画について ○組織強化チームからの提案について
2 月 7 日	○平成 30 年度研修実施報告について ○平成 31 年度研修計画について ○研修計画シートの見直しについて

２．結果及び課題

（１）法人研修体系

・平成 30 年度は、東蒲原福祉会研修体系の見直しを行い、内容を一部変更した新たな東蒲原福祉会研修体系で実施した。今までの問題点が改善されスムーズな研修を行うことが出来た。

（２）新任職員研修

・新任職員研修については、全体研修・専門研修に分けたことや、研修時間や研修内容の見直しを行ったことで効果的な研修が実施できた。新任職員が配属先の業務に早く就けるようになり、講師の日程調整もスムーズとなった。

（３）同業種研修

・同業種研修については、社会福祉法人つばめ福祉会に協力して頂き、6 名の職員が２日間の研修を実施した。他事業所が行っているご利用者への支援の仕方や業務の進め方などを実際に見ることで、よりわかりやすく学ぶことができた。

（４）異業種研修

・異業種研修については、「月岡温泉ホテル泉慶」に協力していただき、３名の職員が１日間の研修を実施した。お客様の立場に立った細やかな対応を学ぶことができた。

（５）ケアセンターどんぐり職員研修

・旧新潟朝日より継続された職員に対し新任職員研修が実施されていなかったため、東蒲原福祉会新任職員研修を施設内研修後に対象職員に対して平成３０年６月から平成３１年２月までの期間で研修を実施し終了した。今後、対象職員に対し、東蒲原福祉会研修体系に沿った研修ができるよう、平成３１年度よりグループ別での研修を実施していく。

（６）今後の取り組み

・平成 30 年度見直しを行った東蒲原福祉会研修体系での研修を継続し、スムーズな研修が実施できるよう対象職員の研修の計画・実施等の進捗状況を確認しながら進めていく。また、ケアセンターどんぐりの旧朝日より継続された職員に対して平成 31 年度より、3 年目研修・4 年目研修・5 年目研修の各グループに分け、3 年間をかけて研修体系に沿った研修が終了できるよう計画し実施していく。

・平成 31 年度から各施設毎で実施していた研修（救急法・法令遵守・個人情報・虐待予防など）を法人全体研修として実施する。今後も効率的で効果的な研修ができるよう施設のスキルアップ委員会と連携しながら実施していく。

４　東蒲原福祉会研修報告

１．研修別内容

研修名	開催日	内容・講師	対象職員	参加者数
新任研修	前年度及び年度中	東蒲原福祉会新任職員研修 講　師：東蒲原福祉会　職員	新任職員	22 名
現任研修	1 月 8 日	「問題解決」 講　師：(株) 日本経営 興　梠　智　和　氏	入社 2 年目から 4 年目の職員	21 名
専門研修	3 月 12 日	「内省力＆共感力をベースにした新たなコミュニケーション力向上」 講　師：(株) ミライバ 真　部　礼　氏	入社 6 年目以上の職員	18 名
役員研修及び管理監督職研修	2 月 27 日	「ゲームで学ぶ介護経営」 講　師：(株) 日本経営 興　梠　智　和　氏 和　久　井　彰　氏	理事 監事 評議員 事務局長 施設長 課長 係長 専門指導職	34 名

２．結果及び課題

（1）東蒲原福祉会研修体系に基づき、平成 30 年度事業計画に掲げた研修を実施

・現任研修では、外部講師を招き、「問題解決」をテーマに研修を実施した。講義中心の研修だったが、世代により仕事に対する考え方が違うことをそれぞれの時代に流行った漫画で具体的に教えていただき、世代の違いによる考え方や価値観の違いがあることを学んだ。

・専門研修は、グループワークを中心とした研修で、コミュニケーションのはかり方も時代とともに変化してきており、指導型コミュニケーションから現在は共感型コミュニケーションになっており、相手を存在として受容し、共感を通じて安心安全を保ちながら主体性を引き出す方法を学んだ。

・役員研修及び管理監督職研修では、講師の方が所属している（株）日本経営が独自で開発した研修の内容で、介護施設の経営をゲーム形式で学べる研修だった。

（２）今後の取組について

・演習やグループワークを織り交ぜた研修を多く実施することができた。開催日が年度末に集中したが、事前に研修の日程等を施設と協議したことにより多くの職員が研修に参加することができた。平成 31 年度も日程調整等を早めに行い、多くの職員が研修に参加できるように計画したい。

Ⅱ　平成３０年度社会福祉法人東蒲原福祉会

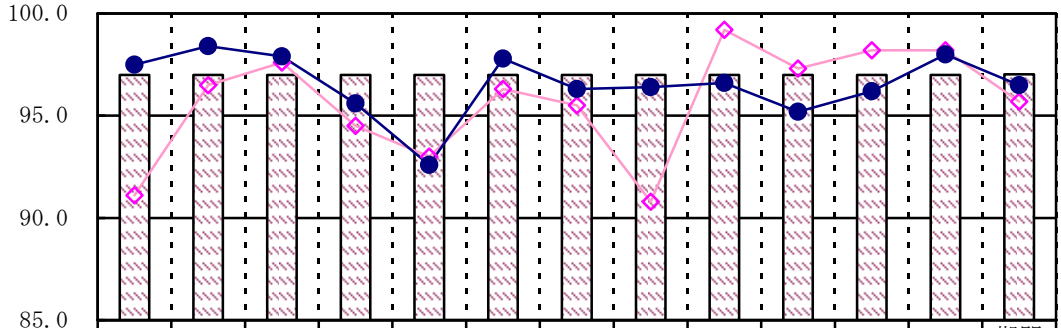
東蒲の里　事業報告

	頁
１．介護老人福祉施設（特　養）	９
２．短期入所生活介護事業（ショートステイ）	１３
３．通所介護事業（デイサービス）	１７
４．居宅介護支援事業	２２
５．障害者共同生活援助事業（グループホーム）	２５
６．障害者短期入所事業（ショートステイ）	２８
７．障害者生活介護事業	３０
８．放課後等デイサービス事業	３３
９．東蒲の里研修報告	３７
10．東蒲の里ボランティア活動状況	３９
11．東蒲の里災害対策	４０
12．東蒲の里苦情受付・対応報告	４１
13．東蒲の里事故等発生状況報告	４２

1 介護老人福祉施設

1. 施設利用稼働率

（単位：%）



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	期間平均
計画稼働率	97.0	97.0	97.0	97.0	97.0	97.0	97.0	97.0	97.0	97.0	97.0	97.0	97.0%
平成29年度	91.1	96.5	97.6	94.5	93.0	96.3	95.5	90.8	99.2	97.3	98.2	98.2	95.7%
平成30年度	97.5	98.4	97.9	95.6	92.6	97.8	96.3	96.4	96.6	95.2	96.2	98.0	96.5%

※稼働率について

・介護老人福祉施設の 1 日定員（50 人）を 100%とした場合の、実利用者の割合を表します。

1 年間の延べ利用日数が 17,619 日であったことから

17,619 日　÷18,250 日〈50 人　×　365 日〉　＝0.9654　稼働率 96.5 %

（延べ利用日数）　（定員）　（実稼働日数）

2. 要介護度別入所者数（平成 31 年 3 月 31 日現在）

	要介護度					平均
	1	2	3	4	5	
平成 29 年度	2	0	8	24	16	4.04
平成 30 年度	0	0	5	23	22	4.34

3. 要介護度状態の変化（平成31年3月31日にご利用されている方を対象としています。）

内　容	要介護
改　善	4 人
維　持	38 人
悪　化	8 人
合　計	50 人

4. 年間行事報告

月　別	実 施 行 事	内　　容
4月16日～20日	観 桜 会	・阿賀町内の桜並木へバスハイキングを行った。桜の下で、お茶を飲み、写真撮影を行った。
7月7日	七 夕 会	・ご利用者、ご家族から短冊に願いを書いていただき、笹に飾り、七夕飾りと一緒に写真撮影を行った。
7月29日	納 涼 祭	・昼食バイキングや屋台での軽食サービス、また地域ボランティアの協力による出店や津川民謡保存会の歌と踊りを楽しんでいただいた。
8月13日	お 盆 供 養	・施設の仏間に十三仏の掛け軸を掛け、龍造寺住職よりお経を上げていただき、お盆供養を行った。
9月16日	敬 老 会	・式典と祝宴を行い、余興には『彩謡会』の歌と踊りで楽しんでいただいた。
12月9日	忘年会 クリスマス会	・昼食に寿司会食を行い、余興には、『いなば会』の歌と踊りで楽しんでいただいた。 ・職員がサンタクロースに仮装し、ご利用者にプレゼントを配った後、ケーキを食べていただいた。
1月1日～2日	お正月 お楽しみ会	・お楽しみ会として、お汁粉、甘酒を用意し、ご利用者に正月の雰囲気を味わっていただいた。
1月15日	小正月	・ご利用者と職員が一緒に団子刺しを行い、楽しんでいただいた。
2月4日	節　　分	・鬼に扮した職員が各居室や食堂を回り、ご利用者に豆まきをしていただいた。
3月4日	ひ な 祭 り	・雛壇を設置し、雛飾りの観賞と記念撮影を行ったあと、食堂においてケーキを食べていただいた。
その他	・ご利用者の要望により、外食や買い物などの外出を随時行った。 ・阿賀町「狐の嫁入り」の花嫁花婿の訪問、地域のボランティアや小学生のボランティア訪問を通して地域との交流を図った。 ・津川地区等への外出を行い地域交流を図った。 ・8月14日に地域の花火大会が催され、施設正面玄関前に出て、スイカを食べながら花火見物を行った。	

5. 事業報告(総括)

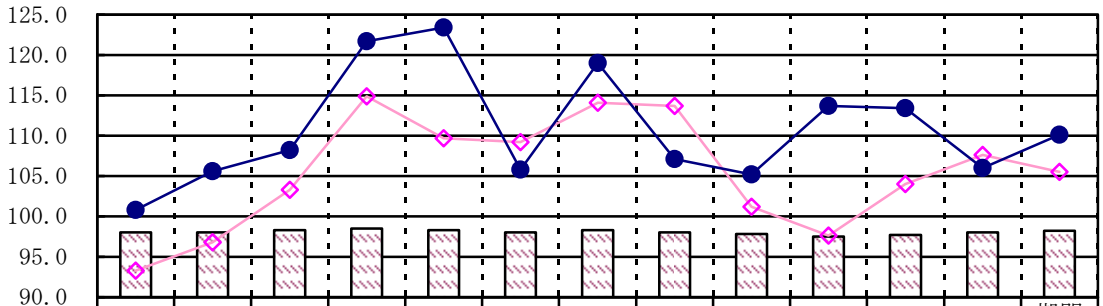
認知症の方が持つ不安や症状の改善を目指し、科学的ケアの理論に基づいて認知症ケアに取り組みます。	
取　組　事　項	①水分摂取量、定期的な排泄、日中の運動量の向上を目的とした科学的ケアや各種研修を通じて学んだことを、事業所内研修を通じて職員に周知し、職員の知識の向上に努めます。 ②利用者が安定した生活リズムで過ごすことができるよう、個々のご利用者に合わせた認知症ケアをケアプランに取り入れます。 ③認知症ケアの充実のため、専門性の高い職員を養成するよう認知症実践者研修や認知症リーダー研修など各種研修に参加します。
実　　績	①認知症の症状とその対応方法を職員研修の中で行い、知識の向上を行った。 ②ケアプランに水分を1日1500mlを摂取することと、鬱症状が見られるご利用者に意識的に声かけを行う援助内容を取り入れた。 ③認知症実践研修に1名の職員が参加した。
課題と今後の取組	・ 認知症実践研修の受講者を増やし、知識の向上に努めると共に、チームとしてアプローチができるようリーダー研修を受講します。 ・ 医療的ケアの知識と技術の向上に努めます。

津川地区を中心にセーフティネットしての役割を果たすと共にご利用者が地域と繋がりのある生活ができる施設を目指します。	
取　組　事　項	①地域に開かれた施設となるため、地域の訪問活動や交流会に積極的に参加し、施設での取り組みの紹介や介護技術等の相談援助を行います。また、より多くの地域住民と楽しめる施設行事を開催します。 ②地区行事を通じて、ご利用者と地域の皆様との触れ合いや交流の機会を増やします。
実　　績	①家族交流会において、施設で行われているケア、口腔ケアや機能訓練、外出などの取り組みを発表した。また、町内の2つの地区へ介護職員が訪問し関節や筋肉を動かす体操の説明と、その体操を住民の方と一緒に行った。 納涼祭においては、80名近くの地域の方々とボランティアの方が来園された。 ②地区の敬老会に参加することができた。
課題と今後の取組	・ 多くの職員が地区訪問へ参加し、介護技術や相談援助を行うと共に、職員一人ひとりが基幹施設の職員である意識の向上に繋げます。 ・ ご家族の他、地域住民を対象に、施設での取り組みの紹介を継続します。また、茶話会などの形で意見交換できる機会を作ります。

2 短期入所生活介護事業

1. 施設利用稼働率

（単位：%）



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	期間平均
計画稼働率	98.0	98.0	98.3	98.5	98.3	98.0	98.3	98.0	97.8	97.5	97.7	98.0	98.2%
平成29年度	93.3	96.8	103.3	114.9	109.7	109.2	114.1	113.7	101.2	97.6	104.0	107.6	105.5%
平成30年度	100.8	105.6	108.2	121.7	123.4	105.8	119.0	107.1	105.2	113.7	113.4	106.0	110.1%

※稼働率について

・短期入所の 1 日定員(8 人)を 100%とした場合の、実利用者の割合を表します。
1 年間の延べ利用日数が 3,214 日であったことから

3,214 日　÷2,920 日〈8 人 × 365 日〉 ＝ 1.1006　稼働率 110.1 %
（延べ利用日数）　（定員）（実稼働日数）

※稼働率が 100%を超えている理由について

・特養部門において入院者がいた場合に、そのベッドを使用して、短期入所のキャンセル待ちの利用者を受け入れたことで、稼働率が 100%を超えている状況です。

2. 要介護度別利用延べ日数

	障害	要支援		要介護度					計
		1	2	1	2	3	4	5	
平成 29 年度	28	11	5	642	791	840	459	298	3,074 日
平成 30 年度	16	5	20	475	693	517	1,005	483	3,214 日

3. 月別利用者数

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	平均
実利用者数	26	26	25	30	28	25	28	25	26	27	26	25	26 人
延べ利用日数	242	262	242	299	306	254	295	257	261	279	254	263	268 日

4. 平均介護度及び平均利用日数(期間平均)

	要 支 援		要 介 護	
	平均介護度	利用者1人あたり 月平均利用日数	平均介護度	利用者1人あたり 月平均利用日数
平成 29 年度	1.60	1.54 日	2.71	9.75 日
平成 30 年度	1.17	2.38 日	3.32	10.38 日

5. 要介護度状態の変化(平成 31 年 3 月にご利用されている方を対象としています。)

内 容	要支援	要介護
改 善	0 人	0 人
維 持	2 人	22 人
悪 化	0 人	1 人
合 計	2 人	23 人

※障害者利用 1 名除く

6. 年間行事報告

園内行事については特養部門と合同で開催した。

7. 事業報告(総括)

専門職の特色を活かしたケアを充実させ、ご利用者やご家族が安心して生活を続けられるよう支援します。	
取　組　事　項	①水分摂取量、食事摂取量、運動量を把握し、ご利用者個々に合った科学的ケアを実践します。 ②法人内の在宅サービスにおいて、合同カンファレンスで情報を共有し、統一したケアを行います。 ③在宅ケアに繋がるよう、医療機関や他の福祉サービスと情報を共有し、医療的ケアや機能訓練を実施します。
実　　績	①ご利用者個々に必要とされるケアを提供した。 ②定期的に合同カンファレンスを開催し、法人内のサービスを利用する方について、統一したケアを提供することができた。 ③医療機関や他の福祉サービスとの情報共有や意見交換を行うことで、身体機能低下のある方、食事摂取量が減っている方、在宅酸素を使用している方など医療的ケアが必要な方のご利用時に、統一したケアを行うことができた。
課題と今後の取組	・医療的ケアに重点を置いた取り組みを行うと共に、在宅で不足しがちな水分や食事摂取量、運動量の把握と増加に努め、健康状態の安定と、身体機能の向上に向けたケアを行います。

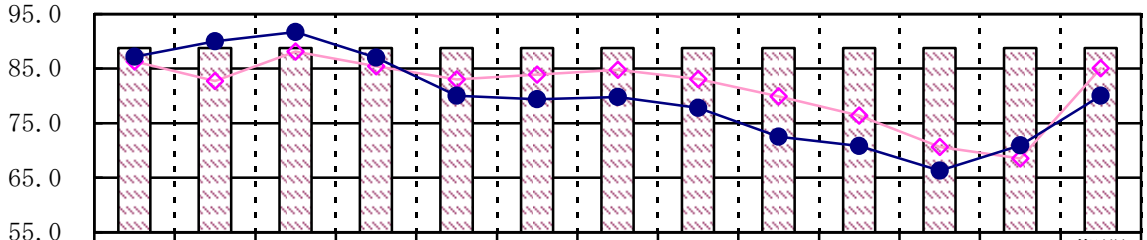
地域住民やご利用者家族へ情報を提供し、互いに協力し合える関係作りに取り組みます。	
取　組　事　項	①地域行事への参加、ご利用者の外出を通し、住民との交流を深め情報の交換を行います。 ②デイサービスやショートステイを利用されているご家族や地域の方を対象とした相談会や勉強会を開催し介護に関する悩みなどを解決できるよう情報を提供します。 ③施設紹介やサービスに関する情報を掲載したパンフレットを作成し、広報活動に取り組みます。
実　　績	①外出や施設内の行事で地域住民との交流が図れた。また、津川地区で花火大会が催された時は、正面玄関前で花火見物を行った。 ②6 月 9 月 12 月にデイサービスと合同で勉強会(介護技術に関する勉強会)を開催し、ご家族との意見交換を行った。 ③パンフレットを作成し、ご利用者に紹介いただける様、各居宅支援事業所へ配布した。また、ご利用者家族に向けて施設での様子や行事の写真を掲載したミニ通信を発行した。

課題と今後の取組	・ご家族との交流会を継続し、ご家族が抱えている介護に関する悩みや相談を共有し、互いに協力して解決できる関係作りに取り組みます。 ・施設での取り組みを紹介するミニ通信の発行を継続し広報活動に取り組みます。

3 通所介護事業

1. 施設利用稼働率

（単位：%）



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	期間平均
計画稼働率	88.8	88.8	88.8	88.8	88.8	88.8	88.8	88.8	88.8	88.8	88.8	88.8	88.8%
平成29年度	86.3	82.7	88.1	85.4	83.0	83.9	84.8	83.1	79.9	76.4	70.6	68.5	85.1%
平成30年度	87.2	90.0	91.7	87.0	80.0	79.4	79.8	77.8	72.5	70.8	66.3	70.9	80.0%

※稼働率について

通所介護事業の1日定員(25人)を100%とした場合の、実利用者の割合を表します。

1年間の延べ利用日数が6,164日であったことから

6,164日 ÷7,725日〈25人 × 309日〉 ＝0.7979 稼働率 80.0%

(延べ利用日数) (定員) (実稼働日数)

2. 要介護度別利用延べ日数

	障害	要支援		要介護度					計
		1	2	1	2	3	4	5	
平成29年度	470	524	687	1,399	1,251	1,033	1,222	756	7,342日
平成30年度	403	440	506	1,111	694	1,317	1,071	622	6,164日

3. 月別利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
実利用者数	76	80	79	74	71	71	71	70	62	60	59	62	70人
延べ利用日数	545	607	596	565	539	503	548	506	471	425	398	461	514日

4. 平均介護度及び平均利用日数(期間平均)

	要支援		要介護	
	平均介護度	利用者1人あたり月平均利用日数	平均介護度	利用者1人あたり月平均利用日数
平成29年度	1.51	6.84日	2.63	7.73日
平成30年度	1.41	6.06日	2.90	7.97日

5. 要介護度状態の変化（平成31年3月にご利用されている方を対象としています）

内　容	要支援	要介護
改　善	3人	4人
維　持	9人	30人
悪　化	0人	4人
合　計	12人	38人

※基準該当6名を除く

6. 年間行事報告

月　別	実 施 行 事	内　　容
4 月 16 日 ～21 日	観 桜 会	・デイサービスフロアにて抹茶を頂きながらお花見を行った。
5 月 21 日 ～28 日	バスハイキング	・町内のスーパーへの買い物やハーバルパークへ出かけ新緑を見て楽しまれた。
6 月 24日	家族意見交換会	・「夏場の健康管理について」の勉強会とご家族同志の意見交換を行った。
7 月 2 日 ～7 日	七 夕 会	・ひまわり保育園の園児の演奏を楽しまれた。また、短冊に願い事を書いていただいた。
8 月 24 日 ～29 日	軽食づくり	・季節感を感じていただけるよう、かき氷を作り食べられた。
9 月 25 日 ～29 日	敬 老 会	・1週間式典とプレゼント贈呈、曜日毎にボランティアや職員による余興を楽しんでいただいた。
9 月 27 日	家族意見交換会	・特養の取り組みについての発表とご家族同志の意見交換を行った。
10 月 22 日 ～11 月 2 日	バスハイキング	・赤崎山や麒麟山公園などに出かけ紅葉を観賞し楽しまれた。
11 月 3 日 ～9 日	作 品 展	・町内の他の施設と一緒に展示された作品を見て楽しまれた。
12 月 18 日 ～22 日	忘 年 会	・日替わりでボランティアや職員の余興を披露した。最終日には皆さんと餅つきを行った。
1 月 16 日	団子さし	・皆さんで団子を丸めたり装飾品を飾って楽しまれた。
2 月 2 日 ～7 日	節　分	・職員が鬼に扮し豆まきをして楽しんでいただいた。
3 月 12 日 ～16日	軽食づくり	・皆さんでクレープを作り食べられた。

7. 事業報告(総括)

相談会や地域活動をとおしてご家族や地域の方々の手助けになるよう東蒲の里が持つノウハウを提供します。	
取　組　事　項	①デイサービスやショートステイを利用されているご家族や地域の方を対象とした相談会や勉強会を開催し介護に関する悩みなどを解決できるよう情報を提供します。 ②地域活動に参加し、住民との交流を作るとともに、地域のニーズに合わせた情報を発信します。
実　　績	①6 月、9 月、12 月にショートステイと合同で介護技術や知識についての勉強会とご家族との意見交換会を行った。 ②地域訪問や意見交換会にてデイサービスの活動内容など介護に関する情報を発信することができた。
課題と今後の取組	・在宅生活や在宅介護が安全に継続できるよう、リスク管理や予防的視点からの情報提供を行います。

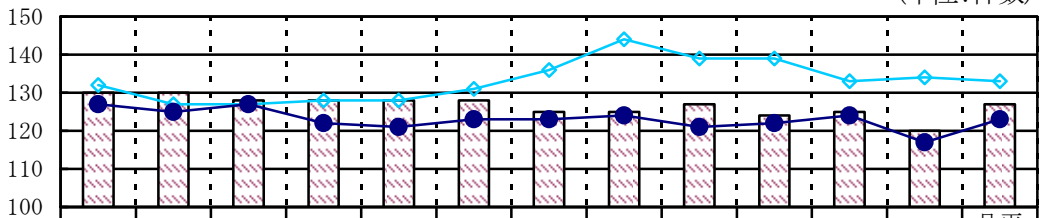
介護現場における職員の専門性の向上を図ると共に、ご利用者一人ひとりの思いに寄り添えるケアを行います。	
取　組　事　項	①ご利用者一人ひとりの状態に合わせた根拠ある認知症ケアの方法を見直します。 ②社会交流や状態の維持・向上を目的とし、根拠あるレクリエーションや趣味活動を行います。
実　　績	①認知症介護実践者研修の参加や認知症ケアに関する勉強会を行い、個々の症状に合わせた認知症ケアを実践した。 ②他者との関わりに重点を置き、他者と協力しやすいレクリエーション等の活動を行うことができた。
課題と今後の取組	・介護に関する知識や技術の向上を図り、複数の選択肢の中から、ご利用者個々の状態に合わせた適切なケアを提供します。

安全に在宅生活が継続できるよう、ご利用者やご家族の状況や生活環境を踏まえ、各職種が専門的な支援を実践します。	
取　組　事　項	①ご利用者やご家族の状況に合わせた利用方法の提案や、状態の変化に合わせ、スムーズに利用できるよう相談支援を行います。 ②在宅での健康管理について専門的な相談・指導を行います。また、必要に応じて医療機関等への情報提供や介護支援専門員との連携を図ります。 ③継続的な機能訓練が行えるよう医療機関や関係機関との連携を図るとともに、必要に応じて自宅での機能訓練についても相談・指導を行います。 ④ご家族が安全な介護が行えるよう個々の状態に合わせた相談・指導を行います。
実　　績	①ご利用者の状況や家庭環境の変化に応じた利用方法についての相談援助を行った。 ②看護師を中心に健康状態の把握や、必要に応じてご家族への指導を行った。また、受診時や状態変化があった際には関係機関への情報提供を行った。 ③関係機関と情報を共有し、継続的に機能訓練を行った。 ④排泄用具の選択方法や移乗方法、ベッド周りの環境について個別に相談・指導を行った。
課題と今後の取組	・ご家族に対し健康管理の方法や観察ポイントなど個々に合った相談・指導を行います。 ・在宅介護が安全に行なえるよう、身体状況に合った介護方法や生活環境等について相談・指導を継続します。

4　居 宅 介 護 支 援 事 業

1. 要介護者給付管理状況

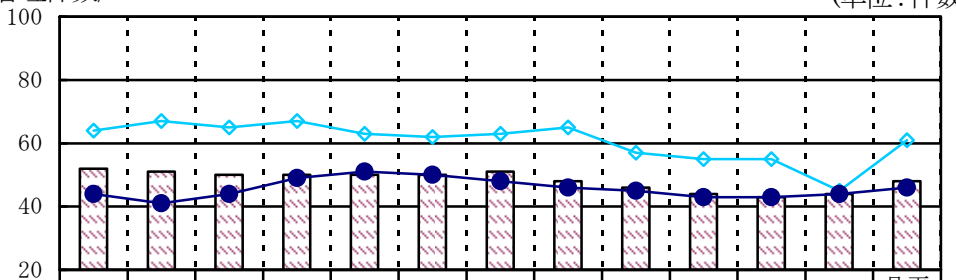
〈給付管理件数〉　　(単位:件数)



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均
計画給付件数	130	130	128	128	128	128	125	125	127	124	125	120	127
平成29年度	132	127	127	128	128	131	136	144	139	139	133	134	133
平成30年度	127	125	127	122	121	123	123	124	121	122	124	117	123

2. 介護予防給付管理状況

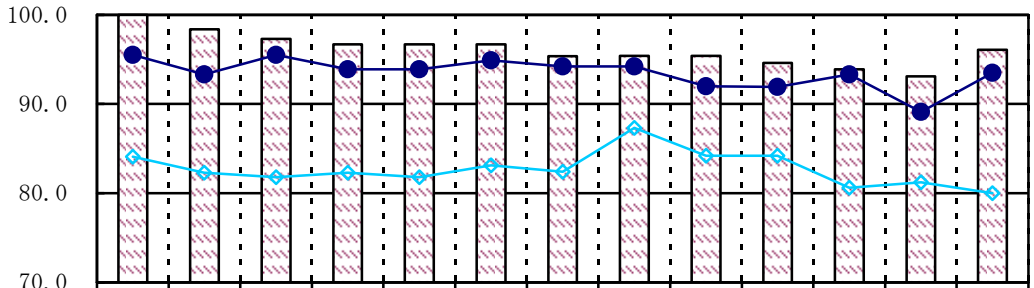
〈給付管理件数〉　　(単位:件数)



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均
計画給付件数	52	51	50	50	50	50	51	48	46	44	43	44	48
平成29年度	64	67	65	67	63	62	63	65	57	55	55	45	61
平成30年度	44	41	44	49	51	50	48	46	45	43	43	44	46

3. 介護保険担当者状況

〈稼働率〉　　(単位：%)



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均
計画稼働率	100.0	98.4	97.3	96.7	96.7	96.7	95.4	95.4	95.4	94.6	93.9	93.1	96.1%
平成29年度	84.1	82.3	81.8	82.3	81.8	83.1	82.4	87.3	84.2	84.2	80.6	81.2	80.0%
平成30年度	95.5	93.3	95.5	93.9	93.9	94.9	94.2	94.2	92.0	91.9	93.3	89.1	93.5%

※稼働率について

介護給付管理を行える上限(1 人あたり 39 人)に対して、給付管理をした人数の割合を表します。ただし、介護予防については、1 人あたり 0.5 人とします。

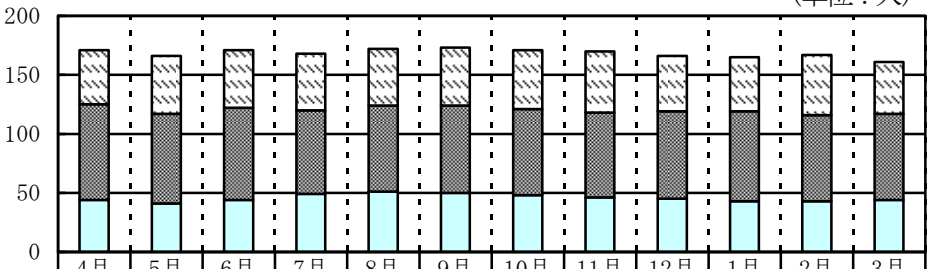
1 年間の延べ給付管理件数が介護給付 1476 人、予防給付(548 人÷2)=274 人＝1750 人であったことから

〈1750 人　÷12 ヶ月〉　÷　〈介護支援専門員数 4 名×39 人〉　＝稼働率 93.4%

(延べ給付管理件数)　　(給付管理上限数)

4. 区分別利用者状況

(単位：人)



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
重度(介護度3～5)	46	49	49	48	48	49	50	52	47	46	51	44
軽度(介護度1～2)	81	76	78	71	73	74	73	72	74	76	73	73
予防(支援1～2)	44	41	44	49	51	50	48	46	45	43	43	44

予防(支援1～2)　軽度(介護度1～2)　重度(介護度3～5)

5. 事業報告(総括)

様々な困難事例に対応できるよう、援助技術の向上を図ります。	
取　組　事　項	①内部での事例検討会を定期的に開催し、スキルアップを図ります。 ②事業所内で事例について話し合う時間をとり、チームでご利用者の支援を行います。 ③他の居宅介護支援事業所と共同で事例検討会を開催します。 ④緊急時に迅速に対応できるよう連絡網の随時更新、マニュアルの見直しを行います。
実　　績	①②困難事例やその時々に起きた問題について、情報交換や対応策を検討することで、チーム全体で支援につなげた。 ③他の事業所と共同で事例検討を行うことで、新たな気付きができ、地域に必要なサービスなどについても検討ができた。 ④マニュアルと連絡網の見直しを行った。
課題と今後の取組	・事業所内及び他事業所との事例検討会を継続します。地域ケア会議なども活用し、より良い支援ができるよう努めます。

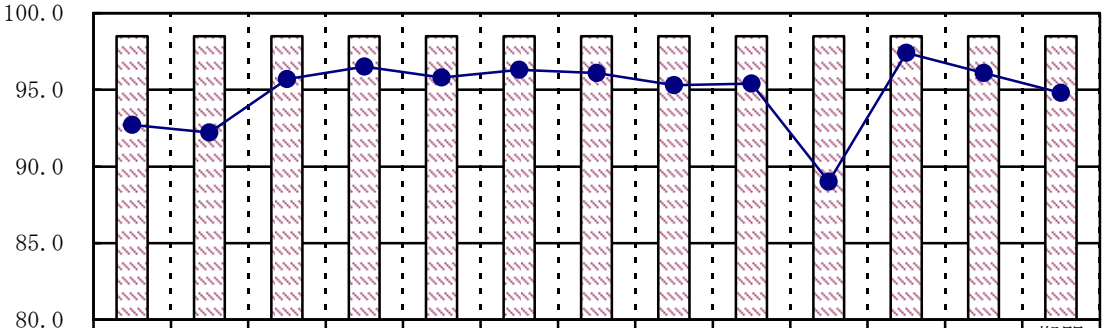
ご利用者が安心してご自宅で過ごせるよう、関係機関と情報交換を密に行います。	
取　組　事　項	①医療機関からの情報収集に努め、ご利用者の状態変化に対応した居宅介護計画を作成します。 ②サービス事業所と連携し、ご利用者の自立に向けた計画を作成します。
実　　績	①町内及び郡外の病院にも出向き、入院時の情報提供及び退院時の情報収集を行い、状況に応じた居宅介護計画作成につなげることができた。 ②事業所からの情報提供を受けるほか、サービス利用中に事業所に出向くことで、状況を把握し、必要時計画の見直しにつなげることができた。
課題と今後の取組	・関係機関との連携を密に行うほか、自宅で最期を迎えたいという方の希望に添えるよう、自宅での看取りについて学びます。

介護保険制度やサービス事業所の内容を、ご利用者やご家族、地域住民に分かりやすく伝えていきます。	
取　組　事　項	①介護保険制度改正に合わせて、事業所の特性を再度作成します。 ②法人内で開催される地域貢献活動や住民向けの集会に参加し、地域の方と交流を図りながら、介護保険についての情報やとうかんケアプランセンターの役割について伝えて行きます。
実　　績	①事業所の特性や体制などを把握し資料としてまとめることで、サービスの選択時に提示することが出来た。 ②地区訪問に参加し、介護支援専門員の役割や介護保険制度について伝えることができた。
課題と今後の取組	・地区訪問への参加を継続し、地域の方に有効な情報を発信していきます。

5 障害者共同生活援助事業(グループホーム)

1. 施設利用稼働率

(単位：%)



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	期間平均
計画稼働率	98.5	98.5	98.5	98.5	98.5	98.5	98.5	98.5	98.5	98.5	98.5	98.5	98.5%
平成29年度	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0%
平成30年度	92.7	92.2	95.7	96.5	95.8	96.3	96.1	95.3	95.4	89.0	97.4	96.1	94.8%

※稼働率について

共同生活援助事業の 1 日定員(10 人)を 100%とした場合の、実利用者の割合を表します。

1 年間の延べ利用日数が 3,462 日であったことから

3,462 日÷3,650 日〈10 人×365 日〉＝0.9484　稼働率　94.8%

(延べ利用日数)　(定員)　(実稼働日数)

2. 障害区分別入所者数(平成 31 年 3 月 31 日現在)

	障害区分						平均
	1	2	3	4	5	6	
平成 29 年度	－	－	－	－	－	－	－
平成 30 年度	0	4	3	3	0	0	2.9

3. 年間行事報告

月　別	実 施 行 事	内　　容
6 月 23 日	バーベキュー	・たいよう、あかり合同で、グループホームたいようにてバーベキューを行った。
8 月 15 日	外出	・生活介護事業所と合同で、ポップサーカスを鑑賞した。
12 月 24 日	クリスマス会	・各ホームで、クリスマスメニューの食事、サンタクロース登場等を行った。
1 月 12 日	団子さし	・各ホームにて団子を作り玄関に飾った。
2 月 3 日	豆 ま き	・各ホームにて昼食に恵方巻をたべ、豆まきを行った。
その他	・ご利用者の要望により、外食や買い物などの外出を随時行った。 ・地域の夏祭りへ出かけ地域交流を図った。 ・たいようの庭の柿でさわし柿を作り、ご近所に配り地域の方との交流を図った。	

4. 事業報告(総括)

ご利用者が地区の住民として、地域とつながりのある生活が送れるよう支援します。	
取　組　事　項	①地区行事や集会等に積極的に参加し、地域住民と関われる機会を作ります。 ②日中活動事業所、就労場所等の関係機関と協力し、安心した生活が送れるよう支援します。
実　　績	①地区の集会に参加することができなかった。 夏祭りへの参加や、さわし柿を配り地域の方との交流を図った。 ご利用者と地域の商店で買い物を行い、理髪店もグループホーム近くを利用することで、地域との関りをもてるようにした。 ②関係機関との連絡を密に取り、本人の様子にあわせた利用調整を行うことで、生活リズムを安定させることができた。
課題と今後の取組	・茶話会やバーベキューなどグループホームに地域の方を招いての交流を行い、ご利用者やグループホームでの生活を知ってもらう機会をつくります。

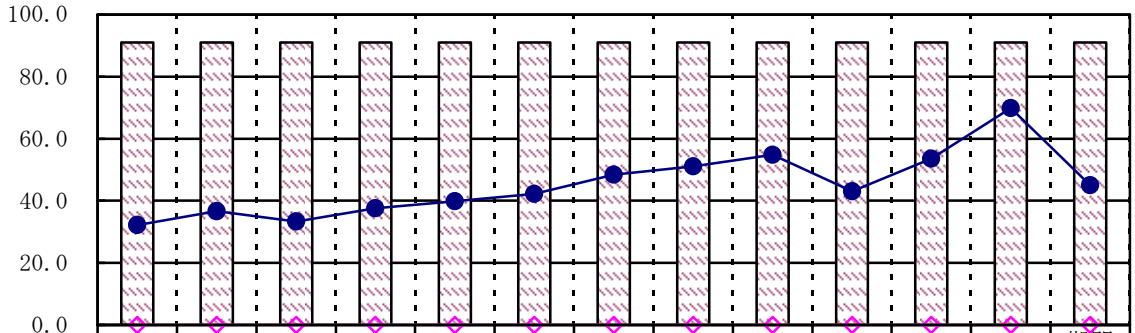
ご本人らしく安心した生活が送れるよう、一人ひとりの意思を尊重し、障害の特徴を理解した支援を行います。	
取　組　事　項	①ご利用者との関わりを多く持ち、その方の希望に添えるよう努めます。また、個々の時間を大切にし、ご利用者が安心して過ごせるよう支援します。 ②日中活動事業所等の関係機関や職員間の情報交換、情報共有が確実に行えるように体制を作ります。
実　　績	①食事の時間や入浴後などのんびりとした時間に、ご利用者と1日の出来事などを話しながら、予定の確認や休日の過ごし方についてを話し合った。 ②日中活動事業所とは連絡ノート等を活用し情報交換を行った。
課題と今後の取組	・日々の生活の中での会話や関りを十分に持ち、個々の希望に添えるように関係機関との調整を行います。

ご家族や関係機関との連携を図ると共に、ご家族に安心していただけるよう情報発信に努めます。	
取　組　事　項	①日中活動事業所や各関係機関との連携を密にし、ご利用者に変化があった場合の原因や対応方法を早期に検討します。 ②グループホームでの様子や出来事をご家族へ定期的にお知らせします。
実　　績	①ご利用者の小さな変化に対しても、各関係機関へ連絡を取り変化の原因、対応について早急に検討した。 ②定期的にご家族へお知らせすることができず、その都度の連絡となってしまった。
課題と今後の取組	・グループホームでの様子を定期的にお知らせできるよう、方法を再度検討し実施します。

6　障害者短期入所事業（ショートステイ）

1. 施設利用稼働率

（単位：%）



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	期間平均
計画稼働率	91.0	91.0	91.0	91.0	91.0	91.0	91.0	91.0	91.0	91.0	91.0	91.0	91.0%
平成29年度	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0%
平成30年度	32.2	36.6	33.3	37.6	39.8	42.2	48.4	51.1	54.8	43.0	53.6	69.9	45.0%

※稼働率について

短期入所の 1 日定員（3 人）を 100%とした場合の、実利用者の割合を表します。

1 年間の延べ利用日数が 493 日であったことから

493 日　÷1,095 日〈3 人×365 日〉＝0.4502 稼働率　45.0%

（延べ利用日数）　（定員）（実稼働日数）

2. 障害区分別延べ利用日数

	児　童			成　人						計
	1	2	3	1	2	3	4	5	6	
平成 29 年度	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
平成 30 年度	0	0	0	0	6	59	52	373	3	493 日

3. 月別利用者数

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	平均
実利用者数	1	2	1	3	3	4	4	4	4	4	5	6	3.4 人
延べ利用日数	29	34	30	35	37	38	45	46	51	40	43	65	41.0 日

4. 平均障害区分及び平均利用日数（期間平均）

	児　童		成　人	
	平均支援区分	利用者1人あたり月平均利用日数	平均支援区分	利用者1人あたり月平均利用日数
平成 29 年度	―	―	－	－
平成 30 年度	0	0 日	4.6	12.0 日

5. 年間行事報告

行事については障害者共同生活援助部門と合同で開催した。

6. 事業報告(総括)

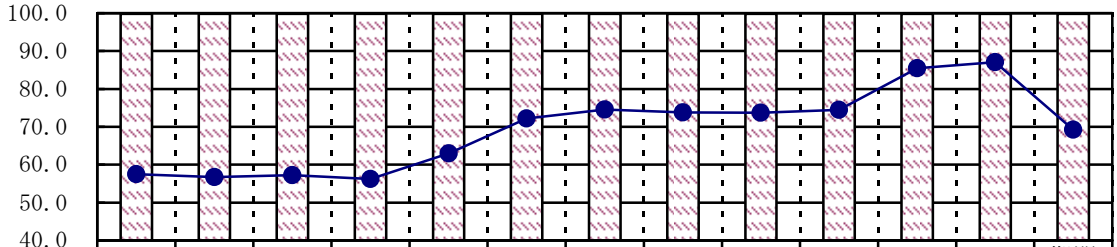
ご利用者、ご家族の希望を伺いながら、自宅で過ごす時と変わらない生活が送れるよう支援します。	
取　組　事　項	①自宅での生活リズムや習慣を理解し、利用時も同じような生活リズムで過ごせるよう支援します。 ②グループホームご利用者と一緒にイベントや地区の行事に参加し、ご利用者と地域とのかかわりが作れるよう支援します。
実　　績	①自宅での生活と変わらず過ごしていただけるよう、事前にご利用者、ご家族から普段の生活の様子の確認と、事業所内での検討を行い支援した。 ②グループホームのご利用者と一緒にイベントや行事に参加してもらうことができた。
課題と今後の取組	・ご利用者によって利用する理由が違うため、一人ひとりの状況に合わせて、ショートステイではどのように受け入れることができるかを検討していきます。

日中活動事業所や関係機関と情報の共有を図り、利用ごとに変化があっても柔軟に対応が出来るよう支援します。	
取　組　事　項	①利用前に状況の確認を行い、状態に合わせた対応が行えるよう支援します。 ②緊急的に利用が必要となった方への対応もできるよう連絡、調整を行います。
実　　績	①利用前の状況確認をしっかりと行うことで、一人ひとりの状態に合わせた対応をすることができた。 ②関係機関からの相談に適切に対応し、急な利用にも対応できた。
課題と今後の取組	・利用前には、確実に状態確認を行います。また、ご利用者個々に合わせた柔軟な対応が出来るよう、職員のスキルアップに努めます。

7 障害者生活介護事業

1. 施設利用稼働率

（単位：%）



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	期間平均
計画稼働率	99.8	99.8	99.8	99.8	99.8	99.8	99.8	99.8	99.8	99.8	99.8	99.8	99.8%
平成29年度	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0%
平成30年度	57.5	56.7	57.2	56.2	63.0	72.2	74.6	73.8	73.74	74.5	85.5	87.1	69.2%

※稼働率について

生活介護事業の 1 日定員（10 人）を 100%とした場合の、実利用者の割合を表します。

1 年間の延べ利用日数が 1,709 日であったことから

1,709 日÷2,470 日〈10 人×247 日〉＝0.6919　稼働率　69.2　%

（延べ利用日数）　（定員）（実稼働日数）

2. 障害区分別延べ利用日数

	障害支援区分						計
	1	2	3	4	5	6	
平成 29 年度	－	－	－	－	－	－	－
平成 30 年度	0	259	325	870	254	1	1,709 日

3. 月別利用者数

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	平均
実利用者数	6	7	6	6	9	10	12	10	10	11	12	13	9.3 人
延べ利用日数	115	119	120	118	145	130	164	155	140	149	171	183	142.4 日

4. 平均障害区分及び平均利用日数（期間平均）

	成　人	
	平均支援区分	利用者1人あたり月平均利用日数
平成 29 年度	－	－
平成 30 年度	3.65	15.83 日

5.年間行事報告

月　別	実 施 行 事	内　　容
8 月 8 日	焼きそば作り	・放課後等デイサービスと合同で焼きそばを作り、ご利用者と屋外で食事を行った。
8 月 14 日	夏 祭 り	・放課後等デイサービスと合同で行った。綿あめやかき氷を生活介護のご利用者に作ってもらい、子供たちはゲーム(輪投げ、的あて、ボーリング)コーナーを担当した。
9 月 19 日	買い物外出	・イオン新潟南店に行き、好きな物を購入された。
12 月 25 日	クリスマス会	・放課後等デイサービスと合同で行い、職員が変装したサンタクロースからプレゼントを受け取った。午後から写真立ての創作を行った。また、地域の飲食店から昼食にいなり寿司弁当の寄付をいただいた。
1 月 11 日	団子さし	・平堀サロン参加の方から団子さしを教えていただいた。その後、サロンの方々との茶話会を楽しんだ。
2 月 1 日	節 分	・昼食に、恵方巻弁当を食べ、その後、豆まきを行った。

6. 事業報告(総括)

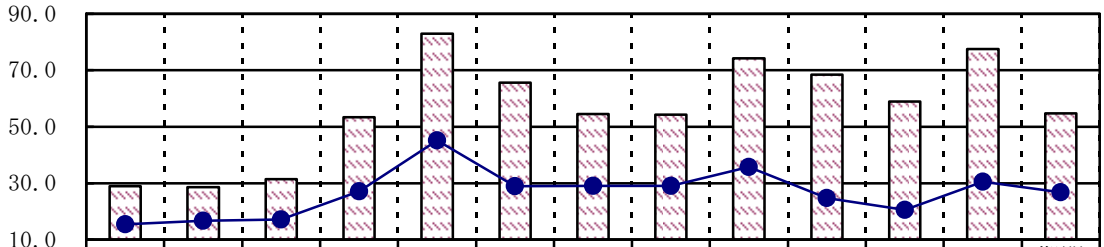
ご利用者のニーズ、障害の特徴を十分理解した活動内容を設定します。	
取　組　事　項	①一人ひとりの能力に合った活動が出来るよう、作業活動の一連の流れを細分化します。 ②ご利用者の意思と自発的な行動、行為を引き出せるよう、本人が自主的に起こした行動を時間をかけて見守り、ご利用者の自主性を支援します。
実　　績	①「空き缶つぶし」「ペットボトルキャップ回収」「シュレッダーかけ」の作業活動について、一連の作業ができないご利用者が参加できるよう、作業工程を細かく分け、参加可能にした。 ②作業工程を細かく分けることで、ご利用者が「やりたい」と思う作業を自分で選択することができた。
課題と今後の取組	・新しい活動内容を検討します。また、ご利用者が自発的に行うための工夫も検討します。

地域とのつながり、人との関わりを重視した支援を行います。	
取　組　事　項	①地域の方と関わりを持てるよう、積極的に園外活動や地域活動を行います。 ②個別支援を行いながらも、人との関わりを意識できる活動内容を行います。(注文したものを配達してもらうのではなく取りに行くなど)
実　　績	①事業所外にて、地域の方と共に作業できるようスケジュールを組み調整した。 ②他者と関わることが苦手なご利用者に対して、「人のため」の活動を通し、自分だけではなく「他の人」を意識できるよう支援した。
課題と今後の取組	・事業所外での活動を積極的に行う事で、地域や人とのつながりを感じてもらえるよう支援します。

8 放課後等デイサービス事業

1. 施設利用稼働率

（単位：%）



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	期間平均
計画稼働率	29.0	28.6	31.4	53.3	83.0	65.6	54.5	54.3	74.2	68.4	58.9	77.5	54.7%
平成29年度	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0%
平成30年度	15.5	16.7	17.1	27.1	45.2	28.9	29.1	29.1	35.8	24.7	20.5	30.5	26.8%

※稼働率について

放課後等デイサービスの１日定員（10 人）を100%とした場合の、実利用者の割合を表します。

1年間の延べ利用日数が 654 日であったことから

654 日÷2,440 日〈10 人×244 日〉＝0.2680　稼働率 26.8 %

（延べ利用日数）　（定員）（実稼働日数）

2. 月別利用者数

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	平均
実利用者数	3	2	2	6	7	4	4	4	6	5	4	6	4.4 人
延べ利用日数	31	34	36	57	104	52	64	61	68	47	39	61	54.5 日

3. 平均障害区分及び平均利用日数（期間平均）

	児　童
	利用者1人あたり 月平均利用日数
平成 29 年度	－
平成 30 年度	12.4 日

4. 年間行事報告

月　別	実 施 行 事	内　　容
8 月 8 日	焼きそば作り	・生活介護事業所と合同で、ほっとサポートとこなみ駐車場にて焼きそばをつくった。子供たちは焼きそばの麺をほぐす担当として調理にも加わった。
8 月 14 日	夏祭り	・生活介護事業と合同で行った。綿あめやかき氷を生活介護のご利用者に作ってもらい、子供たちはゲーム(輪投げ、的あて、ボーリング)コーナーを担当した。
12 月 25 日	クリスマス会	・生活介護事業所と合同で、職員の出し物、クイズ大会、サンタクロースからプレゼントをもらった。午後から、ご家族に宛てたクリスマスカードを作成した。
その他	・季節に合わせ、子供たちが楽しめる活動を行った。(鯉のぼり制作、七夕、スイカ割り、プール、ハロウィン、団子差し、ひなまつり) ・毎月 1 回おやつ作りを行った。	

5. 事業報告(総括)

子供やその保護者が持っている課題を把握し、一人ひとりの状態に合わせた適切な支援を行います。	
取　組　事　項	①子供たちの発達状況、心理状況を踏まえた上で、その子や保護者のニーズを的確に把握できるよう努めます。 ②子供たちの意思と自発的な行動、行為を引き出せるよう、本人が自主的に起こした行動を時間をかけて見守り、子供たちの自主性を支援します。 ③子供たちの生活状況などの変化に対して速やかに対応できるよう、保護者や学校などの関係機関と密接な連携を図ります。
実　　績	①関係機関からの情報や日頃の様子を観察し、子供たちとの関わり方を職員間で検討した。また、送迎時に保護者から情報をいただいたり、担当者会議に参加することで保護者のニーズの把握に努めた。 ②遊びの内容を、子どもたちが話し合いで決める支援を行った。製作活動では、苦手な子でもイメージしやすく、自分から挑戦できるよう、数種類の見本を作り選んでもらった。 ③送迎時の情報交換や連絡帳での情報共有で、子供たちの変化にもいち早く気づく事ができた。
課題と今後の取組	・保護者のニーズをくみ取りながらも、子ども自身のニーズと調整していけるよう、保護者との意見交換や学校、関係機関への相談を行います。

子供たちの成長の段階に応じた切れ目のない支援と働きかけを行います。	
取　組　事　項	①阿賀町で初めて提供される「放課後等デイサービス」について、地域の方や学校などの関係機関に広く認知していただくと共に、子供たちだけではなく保護者も含めた支援を行なう事業であることを伝えていきます。 ②子供たちの将来に見通しが持てるよう、阿賀町や学校関係者などと協力しながら支援を行います。
実　　績	①放課後等デイサービス事業についての紹介や内容を、合同フォーラムや各学校の文化祭に掲示させていただいた。 また、「ほっとサポートとこなみ」を利用してからの子ども達の様子や、先生、保護者からの声をお知らせとして配布した。 ②自立支援協議会療育部会を通し、阿賀町や学校関係者と話い合う機会を持ち協力支援に向けた取り組みを行った。

課題と今後の取組	・事業に関しての紹介が不十分なため、引き続き放課後等デイサービスを知ってもらえるよう、広報紙等の定期的な発行等広報活動に努めます。

9 東蒲の里研修報告

1. 外部研修種別の内訳

項　　目	内　　容	主 な 研 修
技術向上 人材育成	職務を遂行するための技術及び質の向上を目的とした研修 現場実践に必要な基礎知識等の習得及び対人援助職に必要な伝える力の理解を深めることを目的とした研修	認知症介護実践者研修
		医療的ケア職員講習会
		主任介護支援専門員更新研修
		自立支援型ケアマネジメントに向けたステップアップ研修
		災害対応研修
		全国老施協 経営戦略セミナー
		関東ブロックカントリーミーティング
		新潟県老人福祉施設研究大会
		腰痛を防止する介護技術
		介護職のための腰痛肩こりケア
		看取りの現状と課題
		記録の書き方研修
		口腔ケア研修会
		薬剤耐性菌の感染対策について
		メンタルヘルス研修
		安全運転管理者講習会
		食品取扱者衛生講習会
		市民後見人養成講座「フォローアップ研修」
		子ども発達研修会
		子育て支援・発達支援従事者研修
		障害者職場リーダー養成講座
		新潟県サービス管理責任者研修
		関東ブロックカントリーミーティング
		身寄りのない方への支援について
		障害福祉 事例検討会の進め方

2. 内部研修参加状況

開　催　日	研　修　名	対象職員（人）	参加者数（人）	出席率（%）
平成30年5月9日 平成30年5月23日	疾患とご利用者の緊急対応について 感染症、食中毒の予防について 危険予知トレーニング	66	58	87.8
平成30年6月20日 平成30年6月27日	救急法　1時間コース 危険予知トレーニング	67	65	97.0
平成30年7月11日 平成30年7月25日	口腔ケアについて 腰痛予防について 危険予知トレーニング	68	55	80.8
平成30年8月8日 平成30年8月22日	法令遵守について 苦情について 個人情報保護、プライバシー保護について 危険予知トレーニング	68	54	79.4
平成30年9月12日	メンタルヘルスについて 危険予知トレーニング	64	41	64.1
平成30年10月10日 平成30年10月24日	感染症と吐物処理について 高齢者、障害者虐待防止について 緊急時の事故対応、事故分析について 危険予知トレーニング	64	42	65.6
平成30年11月14日 平成30年11月28日	看取りについて 身体拘束について 危険予知トレーニング	67	49	73.1
平成30年12月5日 平成30年12月19日	復命会(外部研修) 褥瘡ケアについて 危険予知トレーニング	67	55	82.1
平成30年1月16日	危険予知トレーニング	65	30	46.1
平成30年3月6日	3年目研修の発表会 事故事例の検討、検証	65	34	52.3

3. 研修報告(総括)

① 外部研修

・認知症実践者研修、喀痰吸引研修、記録の書き方などの研修に参加し、職員の資格取得、技術の習得に努め、内部研修において、その内容を復命した。

・新たに開設した障害者福祉事業において、知識の習得や事例検討などの実践的な研修に参加した。

② 内部研修

・2 回開催した月は高い出席率だが、その他の月の出席率は低下しており、開催方法の検討を行っていく。

10 東蒲の里 ボランティア活動状況

開催月	活動内容	参加者数
4 月	・清拭たたみ ・くつ下名札付け	9
5 月	・清拭たたみ ・利用者との談話	7
6 月	・清拭たたみ	2
7 月	・清拭たたみ ・七夕余興・利用者との談話 ・納涼祭余興とお手伝い	66
8 月	・清拭たたみ	3
9 月	・清拭たたみ ・敬老会余興 ・利用者との談話	51
10 月	・清拭たたみ ・利用者との談話	5
12 月	・清拭たたみ ・忘年会、クリスマス会	68
合計		211 人

11 東蒲の里 災害対策

1．避難訓練

開催月日	訓　練　内　容	参加者数
7 月 3 日	緊急伝達訓練 ・夜間に緊急連絡網を使用し、職員への伝達訓練を行った。	48 名 (職員)
11 月 5 日	県立津川病院との合同避難訓練(日中想定)	10 名 (職員)
3 月 12 日	日中想定避難訓練 ・警報機等の使用方法の確認や、避難誘導の手順を確認しながら訓練を実施した。	19 名 (職員)

2．消防設備点検

開催月日	訓　練　内　容
6 月 7 日	契約業者による消防設備の点検 ・スプリンクラーなどの消火設備、火災報知器、自家発電設備などの点検を行い、点検結果を阿賀町消防本部へ報告した。
6 月 22 日	阿賀町消防本部による立ち入り検査 ・施設内部の立ち入り検査を受けた。
12 月 3 日	契約業者による消防設備の点検 ・スプリンクラーなどの消火設備、火災報知器、自家発電設備などの点検を行い、点検結果を阿賀町消防本部へ報告した。

12 東蒲の里 苦情受付・対応報告

苦　　情

＜特養＞

1. 利用者家族より

ご家族から電話にて、「新しいケアプランが送られてきたが、要介護5になっていた。前までは、要介護3だった。要介護度が変更になったなら、介護計画書だけでなく、もっと分かりやすい文書で変更になった時点で連絡して欲しい。」

と話されていた。

・ご家族に対して謝罪を行った。
・町から要介護認定結果通知が届いたら、速やかに要介護認定結果通知と説明文書を家族に送付することとした。　＜要因:説明不足＞

苦情の発生件数

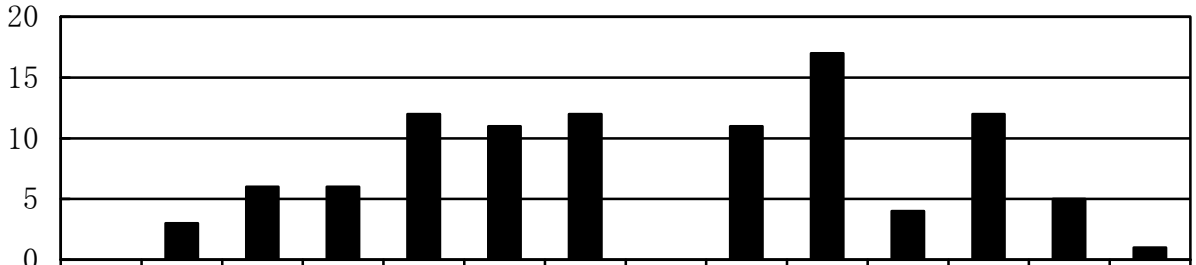
事　　業	件数
特　　養	1件
短期入所	0件
通所介護	0件
合　　計	1件

苦情の発生原因

内容	件数
説明・情報不足	1件
職員の態度	0件
サービスの質	0件
サービスの量	0件
権利侵害	0件
その他	0件
合　　計	1件

13 東蒲の里 事故等発生状況報告

1. 時間帯別発生件数



	午前	0-1	2-3	4-5	6-7	8-9	10-	午後	0-1	2-3	4-5	6-7	8-9	10-
件数		3	6	6	12	11	12		11	17	4	12	5	1

〈発生件数合計 100 件〉

2. 場所別発生件数

発 生 場 所	件 数
居室	52 件
食堂・デイルーム	23 件
トイレ	8 件
廊下・玄関	8 件
浴室	5 件
施設外	3 件
その他	1 件
合計	100 件

3. 内容別発生件数

事 故 内 容	件 数
転倒・転落	64 件
裂傷・火傷	6 件
打撲・皮下出血	8 件
チューブ抜去	3 件
私物紛失	1 件
無断外出	0 件
異食・誤飲	3 件
誤薬	6 件
車輌事故	3 件
その他	6 件
合計	100 件

４．事故報告

・平成２９年度と比較して、発生件数にあまり変化は見られなかった（平成２９年度１０６件)。また、時間帯別、場所別、内容別発生件数も変化は見られていない。毎月の施設内研修において、継続的に取り組んでいる「危険予知トレーニング」の内容をより実践に生かすことができる研修に見直していきます。

Ⅲ　平成３０年度社会福祉法人東蒲原福祉会

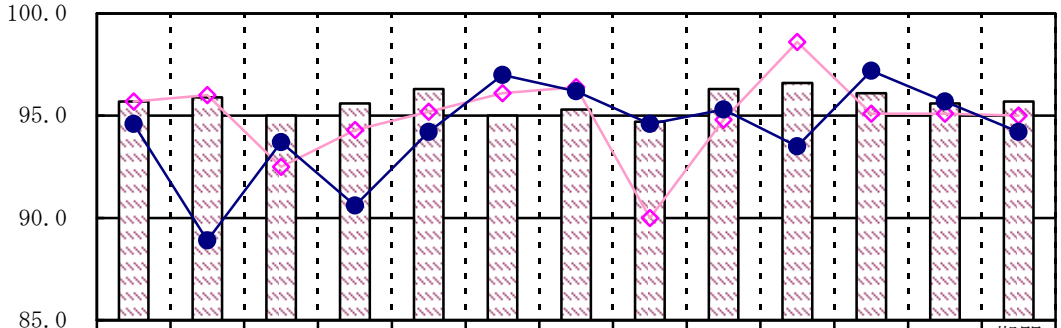
東蒲の里みかわ園　事業報告

	頁
１．介護老人福祉施設（特　養）	４４
２．短期入所生活介護事業（ショートステイ）	４８
３．通所介護事業（デイサービス）	５２
４．通所型サービスＡ（基準緩和型）	５６
５．高齢者生活支援ハウス	５７
６．新潟水俣リハビリモデル事業	５８
７．外出支援サービス事業	５９
８．東蒲の里みかわ園研修報告	６０
９．東蒲の里みかわ園ボランティア活動状況	６２
10．東蒲の里みかわ園災害対策	６３
11．東蒲の里みかわ園苦情受付・対応報告	６４
12．東蒲の里みかわ園事故等発生状況報告	６５

1 介護老人福祉施設

1. 施設利用稼働率

（単位：%）



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	期間平均
計画稼働率	95.7	95.9	95.0	95.6	96.3	95.0	95.3	94.7	96.3	96.6	96.1	95.6	95.7%
平成29年度	95.7	96.0	92.5	94.3	95.2	96.1	96.4	90.0	94.8	98.6	95.1	95.1	95.0%
平成30年度	94.6	88.9	93.7	90.6	94.2	97.0	96.2	94.6	95.3	93.5	97.2	95.7	94.2%

※稼働率について

・介護老人福祉施設の 1 日定員（50 人）を 100%とした場合の、実利用者の割合を表します。

1 年間の延べ利用日数が 17,196 日であったことから

17,196 日 ÷ 18,250 日〈50 人 × 365 日〉 ＝0.9422 稼働率 94.2 %

（延べ利用日数） （定員） （実稼働日数）

2. 要介護度別入所者数（平成 31 年 3 月 31 日現在）

	要介護度					平均
	1	2	3	4	5	
平成 29 年度	0	2	6	20	22	4.24
平成 30 年度	0	1	5	23	21	4.28

3. 要介護度状態の変化（平成31年3月31日にご利用されている方を対象としています。）

内 容	要介護
改 善	1 人
維 持	44 人
悪 化	5 人
合 計	50 人

4. 年間行事報告

月　別	実 施 行 事	内　　容
4 月 17 日 28 日	花　　見	・阿賀町内や阿賀野市の桜を見に行き、季節を感じていただいた。
6 月 19 日	笹団子作り	・白玉粉にヨモギが練り込まれたものと豆腐を使った笹団子風の団子をあんこや、きな粉で食べ楽しんでいただいた。
7 月　1 日 ～7 日	七 夕 会	・短冊に願いを書いて笹に飾り、七夕飾りと一緒に記念撮影を行った。
8 月　5 日	三 涼 祭	・地域のボランティアの方々に多数来園していただき、屋台などの催し物や津川民謡愛好会による太鼓と踊りで楽しんでいただいた。
9 月　2 日	敬 老 会	・式典及び祝宴を行い、余興では新津松坂による民謡や踊りで楽しんでいただいた。
12 月 16 日	忘 年 会	・会食を行い、余興ボランティアの阿賀野小町様の歌を楽しまれ、一緒に踊られた。
12 月 19 日	そば打ち	・職員がそば打ちを行い、ご利用者に年越しそばを食べていただいた。
1 月　1 日 ～3 日	お正月	・お汁粉や甘酒でお正月の雰囲気を感じて頂いた。
2 月　5 日	節分	・感染症の流行により計画日を遅らせたが、職員が鬼に扮して豆まきを行った。
その他	・新発田市のボランティア（チーム・アイビー）演歌、歌謡曲（6月28日）	

5. 事業報告(総括)

ご利用者の人格と人権を尊重し、その方らしい暮らしに近づけるようケアの質の向上を目指します。また、安全と安心を軸に家族、地域との信頼関係を構築します。	
取　組　事　項	① ご利用者の状態を再確認し、新任職員でも分かりやすい個別援助プログラムを作り、根拠に基づいた自立支援を実践します。 ② 専門職の指導のもと「認知症ケア」とは何かを職員一人ひとりが理解し、ご利用者が自分らしく生活できるよう支援に取り組みます。
実　　績	① ご利用者一人ひとりにとって必要な取り組みや、ご利用者の状態に応じた援助方法をまとめ職員間で実施することができた。生活の中で食事動作、排泄動作を個別に分析し、一覧表を作成した。 ② ご利用者の行動や会話から、身体状態や精神状態を汲み取り、「認知症ケア」の視点から職員同士で対応方法を統一することができた。
課題と今後の取組	・運動や、生活動作訓練に関して細やかな援助が不足していたため、取り組み方を検討し行っていく。 ・新任職員にプログラムを分かりやすく説明できるように改良していく。 ・入退所や、やむをえない居室変更も多く、環境の変化があり、混乱してしまうご利用者もみられたため、改善策を検討していく。 ・事業内での研修や勉強会の機会が少なかったため、次年度は計画的に実施する。

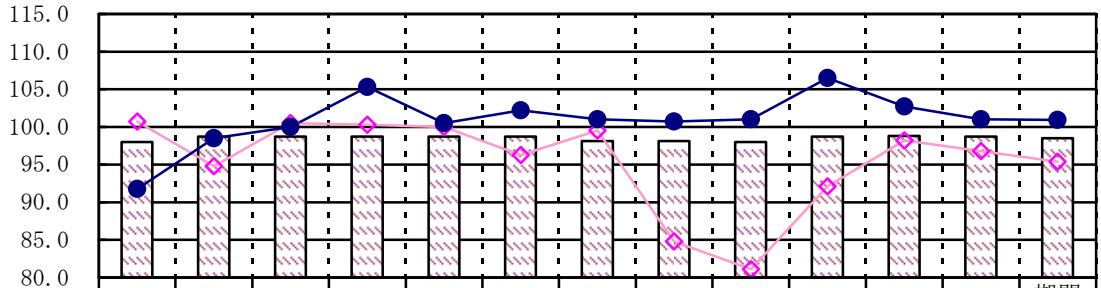
「地域貢献」を実践するために、開かれた施設を目指します。	
取　組　事　項	① ご利用者が地域の一員である事を感じられるよう、地域の行事に参加します。 ② ボランティアを受け入れ地域の方々との交流を図ります。
実　　績	① 感染症の発生があり地域行事への参加はできなかった。 ② 週に２回喫茶ボランティアの受け入れを行った。 ６月２８日新発田市のチームアイビーの余興ボランティアの受け入れを行った。
課題と今後の取組	・地域サロン活動などへの参加ができなかったため、次年度は、感染症や食中毒についてなど広告を作成して近隣地域へ回覧するなど地域との関わりを持てるよう取り組む。 ・外出していただく機会が少なかったため、ご利用者の気分転換や喜び、楽しみが増えるよう次年度、計画していく。

個々に対応したケアを実践し、疾病の再発予防につとめます。	
取　組　事　項	① ご利用者の健康管理と日常観察に重点をおき、異常の早期発見に努めます。
実　　績	① 高齢者が罹りやすい誤嚥性肺炎、尿路感染症、心不全について、ご利用者個々の症状と対応策を周知して早期発見、早期受診に努めた。 ご利用者の高齢化による身体状況の変化もあり、予防策を実施していても病状変化により、入院加療が必要となったケースも多くあった。 また、ご利用者の状態変化を嘱託医に相談し、ご家族と協力しながら、１０名の方を施設で看取ることができた。
課題と今後の取組	・今後も利用者個々の疾病の理解や変化する状態を把握し、個々に応じたケアの検討と周知、実践を継続して、再発予防、早期発見、早期対応により入院の長期化を防いでいく。

2 短期入所生活介護事業

1. 施設利用稼働率

（単位：%）



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	期間平均
計画稼働率	98.0	98.7	98.7	98.7	98.7	98.7	98.1	98.1	98.0	98.7	98.8	98.7	98.5%
平成29年度	100.7	94.8	100.5	100.3	100.0	96.3	99.5	84.8	81.1	92.1	98.2	96.8	95.4%
平成30年度	91.8	98.5	100.0	105.3	100.5	102.2	101	100.7	101	106.5	102.7	101	100.9%

※稼働率について

・短期入所の 1 日定員（20 人）を 100%とした場合の、実利用者の割合を表します。
1 年間の延べ利用日数が 7,366 日であったことから

7,366 日 ÷ 7,300 日〈 20 人× 365 日 〉 ＝ 1.0090　　稼働率 100.9%

（延べ利用日数）　　（定員）（実稼働日数）

※稼働率が 100%を超えている理由について

・特養部門において入院者がいた場合に、そのベッドを使用して、短期入所のキャンセル待ちの利用者を受け入れたことで、稼働率が 100%を超えている状況です。

2. 要介護度別利用延べ日数

	障害	要支援		要介護度					計
		1	2	1	2	3	4	5	
平成 29 年度	114	193	18	1,614	837	1,083	1,654	1,457	6,970 日
平成 30 年度	70	131	35	1,524	1,130	991	1,263	2,222	7,366 日

3. 月別利用者数

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	平均
実利用者数	36	40	40	46	55	58	54	50	49	46	43	47	47 人
延べ利用日数	551	614	600	658	623	613	631	604	623	660	575	615	614 日

4. 平均介護度及び平均利用日数(期間平均)

	要 支 援		要 介 護	
	平均介護度	利用者1人あたり 月平均利用日数	平均介護度	利用者1人あたり 月平均利用日数
平成 29 年度	1.15	5.14 日	3.02	13.18 日
平成 30 年度	1.13	6.91 日	3.04	12.62 日

5. 要介護度状態の変化(平成 31 年 3 月にご利用されている方を対象としています。)

内 容	要支援	要介護
改 善	0 人	1 人
維 持	1 人	19 人
悪 化	0 人	2 人
合 計	1 人	22 人

6. 年間行事報告

月 別	実 施 行 事	内 容
8 月 5 日	三涼祭	・地域ボランティアの方に来園して頂き、屋台や職員による、よさこいなどの余興を行い楽しんで頂いた。
9 月 2 日	敬老会	・式典及び祝宴を行い、余興では民謡や踊りで楽しんで頂いた。
10 月 1 日	芋煮会	・ご利用者と一緒に下準備、調理を行い、皆さんで美味しく食べて頂いた。
10 月 23 日	バスハイク	・新潟市のいくとぴあ食花に行き花を観賞し楽しんで頂いた。昼食も外食を行った。
12 月 16 日	忘年会	・職員によるダンスやクリスマスプレゼントを渡し楽しんで頂いた。
12 月 19 日 25 日 28 日	そば打ち	・職員がそば打ちを行い、ご利用者にそばを振る舞った。
3 月 5 日	ひな祭り	・ひな祭り用のケーキを皆さんで美味しく頂いた。
その他	・ボランティアによるコンサート (6 月 28 日)	

7. 事業報告(総括)

ご利用者から選ばれる施設を目指します。	
取　組　事　項	① 関係事業所への定期的な訪問と報告及び、サービス担当者会議の中でショートステイの活動を紹介し、新規利用者に選んでいただけるよう取り組みます。 ② 機能訓練や生活リハビリ、また地域行事への外出やご家族も参加できる行事、懇談会を行う等、ご利用者が元気で笑顔になれる援助活動に取り組みます。
実　　績	① 病院の担当者やケアマネと随時情報交換を行い、担当介護職員がサービス担当者会議へ参加し、援助や活動の内容を紹介してきたことで、新規利用者の獲得に繋がった。 ② 機能訓練を継続してきたことで、退院後の利用で車椅子全介助であった方が、移乗動作が出来るようになり在宅復帰し、ご家族にも喜んでいただいた。 行事については、お花見や買い物、地域行事へ参加し、ご利用者に楽しんでいただいた。 ご家族との交流会を企画した時期に感染症の流行により実施できなかった。
課題と今後の取組	・ 今後も、選ばれるサービスになれるよう関係機関との連携を密に行い、援助内容や活動を広めていく取り組みを行う。 ・ 次年度は、ご家族との懇談会の時期を早めて企画を行う。 ・ 機能訓練指導員が不在の日は、訓練が実施できなかったため、他の職員が継続して行なえるよう業務や職員体制の検討を行なっていく。

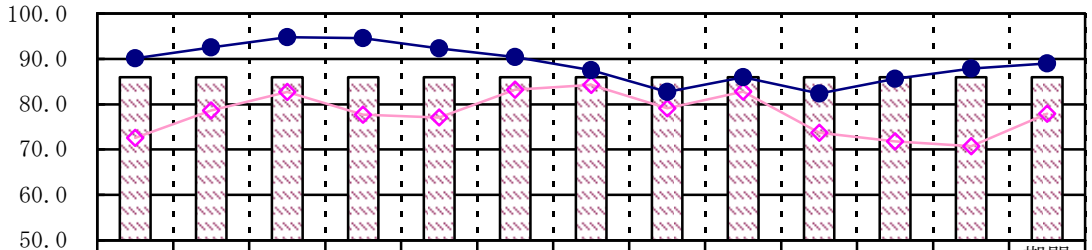
基本的ケアの徹底。	
取　組　事　項	① ご利用者自身が日常の中で、選択しながら自分らしく生活できるよう自立支援に努めます。 ② 認知症の方や、重度の方のニーズに応えられるよう、援助方法を再確認し根拠に基づいた援助を実践します。 ③ 重度の方や看取り介護を希望される方の体調が安定し、安心して利用していただけるよう事業所内外の研修を通して、介護職員の医療的ケアの質の向上に取り組みます。
実　　績	① ご利用者が選択する声かけを職員で徹底し、言葉づかいや、笑顔、態度など、グループ会議で振り返り評価する機会をつくることができた。 ② ご利用者個々の援助方法を再確認し、職員同士が情報共有しながら認知症の個別援助に取り組むことができた。 ③ 担当看護師により医療的ケア・喀痰吸引について研修を行い、注意点などを再確認して援助に生かすことができた。

課題と今後の取組	・ 今後も援助、対応について振り返る機会を作り、サービスの向上に取り組んでいく。 ・ 様々な状態のご利用者に対応できるよう、根拠に基づく介護を継続して取り組んでいく。 ・ 今後も医療的ケアが必要な重度の方の対応力が向上するよう研修に参加し知識を高めながら看護、介護が連携して取り組みます。

3 通所介護事業

1. 施設利用稼働率

（単位：%）



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	期間平均
計画稼働率	86.0	86.0	86.0	86.0	86.0	86.0	86.0	86.0	86.0	86.0	86.0	86.0	86.0%
平成29年度	72.6	78.6	82.7	77.7	77.1	83.2	84.3	79.1	82.8	73.7	71.8	70.7	77.9%
平成30年度	90.1	92.5	94.8	94.6	92.3	90.4	87.5	82.7	86.0	82.4	85.6	87.9	89.0%

※稼働率について

・通所介護事業の 1 日定員（22 人）を 100%とした場合の、実利用者の割合を表します。

1 年間の延べ利用日数が 6,049 日であったことから

6,049 日 ÷ 6,798 日〈22 人 × 309 日〉 ＝ 0.8898 稼働率 89.0%

（延べ利用日数） （定員） （実稼働日数）

2. 要介護度別利用延べ日数

	障害	要支援		要介護度					計
		1	2	1	2	3	4	5	
平成 29 年度	41	351	329	2,677	1,221	262	489	839	6,209 日
平成 30 年度	35	438	524	2,168	936	750	630	568	6,049 日

3. 月別利用者数

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	平均
実利用者数	63	63	65	63	61	67	66	63	64	63	56	62	63 人
延べ利用日数	496	550	542	541	548	497	520	473	492	435	452	503	504 日

4. 平均介護度及び平均利用日数（期間平均）

	要 支 援		要 介 護	
	平均介護度	利用者1人あたり月平均利用日数	平均介護度	利用者1人あたり月平均利用日数
平成 29 年度	1.48	5.60 日	2.17	7.28 日
平成 30 年度	1.40	4.87 日	2.30	8.54 日

5. 要介護度状態の変化（平成 31 年 3 月にご利用されている方を対象としています。）

内 容	要支援	要介護
改 善	0 人	5 人
維 持	11 人	39 人
悪 化	4 人	6 人
合 計	15 人	50 人

※基準該当 1 名を除く

6. 年間行事報告

月 別	実 施 行 事	内 容
7 月 21 日	利用者ご家族との交流会	・ご家族に対し「認知症の理解」について勉強会を開催、意見交換会を行い、自宅での関わり方の参考にしていただいた。
9 月 17 日 ～22 日	敬老週間	・ご利用者の皆さんに記念品を贈呈し、職員がお祝いの言葉を贈った。
10 月 1 日	芋煮会	・ご利用者と一緒に下準備、調理を行い、皆さんで食べていただいた。
11 月 19 日	利用者ご家族との交流会	・ご家族に対し「感染症」の勉強会、機能訓練プログラム、ホットパック体験を行い、交流を図った。
12 月 6 日	郷土料理づくり	・のっぺ、五目おこわ、野菜天ぷらを下準備、調理、味付けを行い、食べていただいた。
12 月 22 日 ～28 日	そば打ち会	・職員がそば打ちを行い、ご利用者に年越しそばを振る舞った。
3 月 2 日	ひな祭り	・ケーキを食べ、歌を歌うなどして楽しんだ。

7. 事業報告（総括）

ご利用者及びご家族の在宅生活を支え、生活環境が改善するよう、特色あるリハビリを実施します。	
取　組　事　項	① 奥山理学療法士の指導を継続し、計画・立案するとともに「温熱療法」に取り組むことで疼痛を緩和し、リハビリの効果が上がるよう支援します。 ② リハビリの目的や効果について、ご利用者やご家族に説明を行い、意欲的に機能訓練を実施できるよう支援し、取り組みます。
実　　績	① グループ会議にて、機能訓練メニューや温熱療法の個別の留意点について研修を行い全職員に周知して取り組んだ。 ② リハビリ開始時にタブレットを使用し、リハビリ内容をご家族に紹介した。映像を見ることで、実際のプログラムメニューを確認していただいた。また、理学療法士の評価、指導を継続して受けたことで、ご利用者は意欲的に取り組み、リハビリの効果も現われ「転倒することが少なくなった」「利用回数を増やしたい」との声が寄せられた。 ③ ホットパック導入による温熱療法においては、対象者に痛みや痺れの軽減を実感していただき、訓練をスムーズに進めることができた。
課題と今後の取組	・ ご利用者一人ひとりの希望や生活環境を把握するため、アセスメントの重要性を認識し、自宅での生活機能向上が図れるよう、理学療法士の指導を元に、全職員が機能訓練の知識や技術の向上に取り組んでいく。 ・ 次年度は理学療法士に訓練を指導していただく対象者を増やし、より多くの方が状態改善できるよう取り組んでいく。

認知症ケアの質を高め、生活能力や意欲を向上させる支援を行います。	
取　組　事　項	① 在宅での生活を継続できるように、認知症実践者研修で得た知識を生かして、症状別の根拠に基づいた認知症ケアや専門的な関わり方を実践します。 ② ご利用者の認知症状に対応し、ご利用者が目的や役割を持つことで自立を促し、継続して取り組むことができる脳活性プログラムを作成し、活動を提供します。
実　　績	① 認知症ケア「関わり方について」事業所で研修会を開催した。家族交流会にて、認知症勉強会を開催した。 ② ご利用者がコミュニュケーションをとりやすい環境をつくり、落ち着いて過ごせるよう取り組んだ。 利用者個々の状態や意欲、嗜好に配慮して、認知能力機能

	訓練（脳活性化トレーニング）、創作活動、機能訓練器具等を活用し、集中して実施できる時間をつくったことで、落ち着かない等の行動が減少し、また徐々に注意力、集中力、記憶力の向上が見られ、認知症状が緩和する効果があった。
課題と今後の取組	・ 個々の目標を設定し、プログラム内容の選択肢を増やし、またトレーニングの効果等について PR 活動に取り組み、新規利用者を増やしていく。 ・ 職員が研修会に参加し、認知症対応の専門性を高め、認知症ケア加算の算定を行う。

利用者が安心して利用できるよう、ご家族との連携を深める取り組みを行います。	
取　組　事　項	① 関係機関へ訪問し、実践しているサービスや活動をわかりやすく発信して、利用者確保に取り組みます。 ② 中・重度の利用者とそのご家族に対しコミュニュケーションを大切にし、精神的支援を行いながら、活動状況の報告や情報交換を行います。 ③ 併設のショートステイおよび法人内事業所と連携を深め、一人ひとりのご利用者に連動したサービスを行います。
実　　績	① 担当者会議等でケアマネや関係機関へ活動を発信することができた。利用予定日を都合でキャンセルした場合でも、別の日に利用ができるよう提案する取組みができた。 ② ご家族から自宅での様子を聞き取り、ご利用者のADLの変化、健康面や不適応行動、機能訓練、介護方法に関する相談を受け、職員が助言、提案を行ったことで課題の早期発見に繋がった。またご家族の不安を軽減することができ、信頼関係を築く機会となった。 ③ 併設のショートステイおよび訪問介護職員と、利用者の状態変化や対応方法について統一したサービス提供が実施できるよう、情報共有を図った。
課題と今後の取組	・ 在宅における生活動作がスムーズに行える機能訓練が実施できるよう担当職員が定期的に在宅へ訪問し、ご家族と情報共有ができる体制をつくる。

４ 通所型サービスＡ(基準緩和型)

1. 通所型サービス利用状況

	新規登録者　　数	登録者数	登録終了者　　数	事業日数	延べ利用者数	1日平均利用者数
4 月	0	13	0	4	44	11.0
5 月	1	14	0	4	51	12.8
6 月	1	15	0	4	46	11.5
7 月	0	15	1	4	54	13.5
8 月	0	14	0	3	40	13.3
9 月	0	14	0	4	50	12.5
10 月	0	14	0	4	51	12.8
11 月	0	14	0	4	45	11.2
12 月	0	13	1	4	47	11.7
1 月	0	13	0	3	30	10.0
2 月	0	12	1	4	36	9.0
3 月	0	12	0	4	46	11.5
年間統計	2 人		3 人	46 日	540 人	11.7 人

5 高齢者生活支援ハウス

1. 生活支援ハウス利用状況

	新規 入居者数	退居者数	月間 入居者数		新規 入居者数	退居者数	月間 入居者数
4 月	0	0	7	10 月	0	0	8
5 月	0	0	7	11 月	0	0	8
6 月	0	0	7	12 月	2	0	10
7 月	1	0	8	1 月	0	0	10
8 月	0	0	8	2 月	0	0	10
9 月	0	0	8	3 月	0	0	10
				合計	3 人	0 人	101 人

2. 年間行事・交流会

入居者同士の交流や地域との交流のため、行事の企画と参加を支援した。

月　日	行　　事
7 月　6 日	七夕　茶話会
8 月　5 日	みかわ園　三涼祭
9 月　8 日	阿賀町敬老会　参加
9 月 21 日	敬老　茶話会
12 月 22 日	クリスマス・忘年会
1 月　2 日	新年会
1 月 12 日	だんごさし
3 月　1 日	ひな祭り　茶話会

3. 介護サービス利用状況

利用介護サービス	利用入居者数
デイ ケア	2 人
デイサービス・訪問介護	3 人

6 新潟水俣リハビリモデル事業

1.「らっくり体ケア教室」利用状況

	新規登録者数	登録者数	終了者数	事業日数	延べ利用者数	1日平均利用者数
4月	60	60	0	15	158	10.5
5月	3	63	0	21	219	10.4
6月	1	64	0	21	224	10.7
7月	0	64	5	21	253	12.1
8月	3	62	0	19	198	10.4
9月	0	62	0	18	187	10.4
10月	0	62	4	22	241	11
11月	6	64	0	21	198	9.4
12月	2	66	1	19	186	9.8
1月	0	65	0	19	191	10.1
2月	0	65	0	19	201	10.6
3月	0	65	0	11	113	10.3
年間	75人		10人	226日	2,369人	10.5人

2. 交流会行事実施報告

月　別	実 施 行 事	内　　容
4月16日 ～20日	お花見会	・阿賀町内の桜を見に行き、桜を見ながら茶話会を行った。
5月21日 ～25日	将軍杉散策	・岩谷の将軍杉を見学し写真撮影を行った。
6月25日 ～29日	豆腐団子作り	・豆腐と白玉団子を使用した団子を作り、あんこやきな粉をつけて美味しくいただいた。
7月6日	第1回交流会	・みかぐら荘で温泉や美味しい料理を堪能し、職員の余興や中野小路たかまろ氏による漫談を楽しんだ。
9月10日 ～14日	敬 老 会	・茶話会でホットケーキを焼いて食べ、喜寿、米寿、白寿の方へお祝いの品を贈呈し記念撮影を行った。
10月12日	第2回交流会	・赤崎荘で温泉や美味しい料理を堪能し、職員の余興やカラオケ大会で楽しんだ。
12月17日 ～21日	クリスマス会	・クリスマスケーキを食べ、お楽しみゲームで参加者へプレゼントを贈呈した。
2月1日 ～5日	節分豆まき	・職員が鬼に扮して参加者が豆まきを行った。
3月1日 ～7日	ひな祭り会	・ひな祭りの歌を合唱し、茶話会では米子を使用した桜餅を作って食べた。

7 外出支援サービス事業

1. 外出支援事業利用状況

平成30年度実績		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間実績
利用件数		6	7	2	3	3	3	7	5	6	7	10	4	63件
地域	郡内	5	4	1	3	2	1	4	2	5	6	8	3	44件
	郡外	1	3	1	0	1	2	3	3	1	1	2	1	19件

2. 外出支援状況

利用目的	受付件数	実施件数
受診移送	63件	52件
入院移送	2件	1件
退院移送	12件	10件
外出移送	0件	0件

月平均利用件数	5.8件
一件の平均距離	51.2km
一件の平均所要時間	2.7時間

8 東蒲の里みかわ園 研修報告

1. 外部研修種別の内訳

項　　目	内　　容	主 な 研 修
技術向上 人材育成	職務を遂行するための技術及び質の向上を目的とした研修 現場実践に必要な基礎知識等の習得及び、対人援助に必要な伝える力の理解を深めることを目的とした研修	喀痰吸引等研修
		安全運転管理者等講習
		新潟水俣病ケアガイド研修会
		新潟県老人福祉施設協議会企画研修会
		第一ブロック第１回研修会
		第一ブロック第２回研修会
		施設介護支援専門員研修
		食品取扱者衛生講習会
		全国老人福祉施設研究会議
		関東ブロックカントリーミーティング
		総務委員会企画研修
		年末調整・給与計算の実践研修
		認知症介護実践者研修会
		全国老人福祉施設研究大会
		社会福祉施設安全管理研修
		在宅看取り推進のための研修会
そ の 他	情報管理説明会など	経営戦略セミナー 通所介護事業集団指導 短期入所事業集団指導

2. 内部研修参加状況

開　催　日	研　修　名	対象職員（人）	参加者数（人）	出席率（%）
平成30年5月29日	・施設におけるプライバシー保護 ・個人情報について ・倫理及び、法令遵守について ・食中毒について	58	34	58.6
平成30年6月26日	・防災マニュアルについて ・身体拘束について ・高齢者虐待について ・安全で負担の少ないトランスファを学ぶ	54	32	59.2
平成30年7月23日 平成30年7月24日 平成30年7月25日	・救急法講習	55	54	98.2
平成30年8月28日	・リスクマネジメントについて ・認知症ケアについて	54	34	63.0
平成30年9月25日	・メンタルヘルスケアについて ・腰痛予防について	53	30	56.6
平成30年10月30日	・口腔ケア、嚥下のメカニズムについて（外部講師） ・身体にかかる圧の影響と対策（外部講師・モルテン）	47	28	59.6
平成30年11月27日	・看取りケアについて ・感染症対策の実践 ・停電時の発電機の使用方法	55	39	70.9
平成30年12月18日	・身体拘束について ・リスクマネジメントについて ・褥瘡予防について	55	31	56.4
平成31年 3月26日	・3年目、4年目研修発表会 ・今後の園内研修開催についてのアンケート結果発表	56	30	53.6

3. 研修報告（総括）

① 外部研修

・各種外部研修で習得した知識、技術を各事業においての研修で周知し、職員のスキルアップやサービス向上につながった。

② 内部研修

・外部講師を招いて口腔ケア、嚥下のメカニズムについての知識を習得した。

・介護機器メーカーによる講演と機器を使用して実践するなどして勉強会を行った。

9 東蒲の里みかわ園 ボランティア活動状況

開催月	活動内容	参加者数
6 月	・新発田市のボランティア（チーム・アイビー）による演歌、歌謡曲 ・毎週火曜日と金曜日に玄関ロビーで行っている喫茶店でコーヒーやお菓子の用意や利用者と会話など。	26 人
7 月	・施設外周及び中庭の草刈り。 ・三涼祭（夏祭り）屋台など。 ・毎週火曜日と金曜日に玄関ロビーで行っている喫茶店でコーヒーやお菓子の用意や利用者と会話など。	60 人
8 月	・毎週火曜日と金曜日に玄関ロビーで行っている喫茶店でコーヒーやお菓子の用意や利用者と会話など。	19 人
9 月	・毎週火曜日と金曜日に玄関ロビーで行っている喫茶店でコーヒーやお菓子の用意や利用者と会話など。	18 人
10 月	・毎週火曜日と金曜日にロビーで行っている喫茶店でコーヒーやお菓子の用意や利用者と会話など	19 人
11 月	・毎週火曜日と金曜日にロビーで行っている喫茶店でコーヒーやお菓子の用意や利用者と会話など	13 人
12 月	・毎週火曜日と金曜日にロビーで行っている喫茶店でコーヒーやお菓子の用意や利用者と会話など	20 人
合計		175 人

10 東蒲の里みかわ園 災害対策

1．避難訓練

開催月日	訓　練　内　容	参加者数
6 月 20 日	・夜間想定避難訓練（緊急伝達訓練含む） 夜間、実際に緊急連絡網により職員を招集し、模擬利用者や車いすをご利用者に見立て避難誘導を実施した。	35 名 （職員）
10 月 25 日	・日中想定避難訓練 阿賀町消防本部立ち会いのもと、避難訓練を実施した。（デイサービス利用者 2 名参加）	16 名 （職員）
2 月 22 日	・緊急伝達訓練 夜間に緊急連絡網を使用し、職員への伝達訓練を行った。	56 名 （職員）

2．消防設備点検

開催月日	訓　練　内　容
6 月 7 日	・契約業者による消防設備の点検 スプリンクラーなどの消火設備、火災報知器、自家発電設備などの設備の点検を行い、点検結果を阿賀町消防本部へ報告した。
7 月 3 日	・阿賀町消防本部による立ち入り検査 施設内部の立ち入り検査を受けた。
12 月 20 日	・契約業者による消防設備の点検 スプリンクラーなどの消火設備、火災報知器、自家発電設備などの設備の点検を行い、点検結果を阿賀町消防本部へ報告した。

3．作成

作成日	内　容
9 月 1 日	・災害対策マニュアル作成（地震、風水害、火災）

11　東蒲の里みかわ園　苦情受付・対応報告

苦　　情

＜短期＞

1．利用者家族より

衣替えの季節に家族が衣類の入れ替えを職員に依頼した。後日、入れ替え後の冬物衣類を引き取って確認すると他者の衣類が混じっていた。以前も同じようなことがあったので対策を検討し今後、このようなことがないようにしていただきたい。

・同じ失敗を繰り返してしまい、不快な思いをさせてしまったことを謝罪し、職員へ物品確認の手順、方法について周知徹底した。

＜要因：サービスの質＞

＜通所＞

2．利用者家族より

「以前、デイサービスを利用していた時の内履きはありますか」と連絡があった。すぐに職員が手分けして探したが発見できず、家族に伝えたところ、「紛失したとはどういうことですか。理由を教えてほしい」と言われた。再度、靴を探したところ発見し、すぐにご自宅に届け、謝罪する。

家族より「今後、デイサービスを利用しないと連絡した時に、施設で使用していた靴をどう扱えばいいのかの連絡がなかったのが腑に落ちなかった。取りに来てくださいとか、処分してもいいですかなど、連絡があってもいいのではないか」

・利用者家族に謝罪し、利用時の預かり品については、利用中止になった時点で家族に確認して返還することを徹底した。

＜要因：説明・情報不足＞

苦情の発生件数

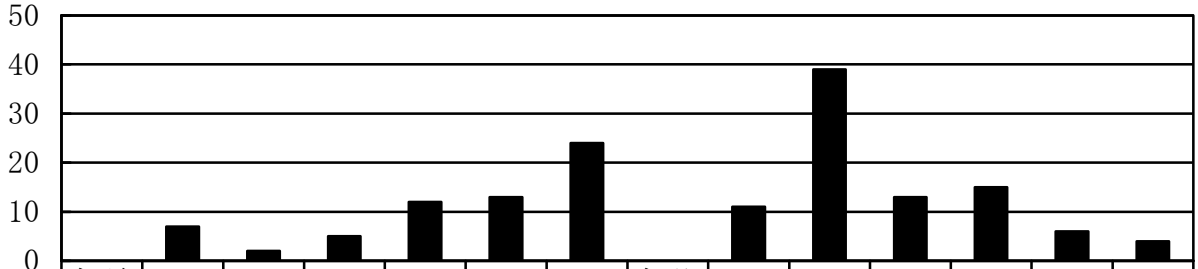
事　　業	件数
特　　養	0件
短期入所	1件
通所介護	1件
合　　計	2件

苦情の発生原因

内容	件数
説明・情報不足	1件
職員の態度	0件
サービスの質	1件
サービスの量	0件
権利侵害	0件
その他	0件
合　　計	2件

12 東蒲の里みかわ園 事故等発生状況報告

1. 時間帯別発生件数



	午前	0-1	2-3	4-5	6-7	8-9	10-	午後	0-1	2-3	4-5	6-7	8-9	10-
件数		7	2	5	12	13	24		11	39	13	15	6	4

〈発生件数合計 151 件〉

2. 場所別発生件数

発 生 場 所	件 数
居室	48 件
食堂・デイルーム	54 件
トイレ	4 件
廊下・玄関	14 件
浴室	26 件
施設外	5 件
その他	0 件
合計	151 件

3. 内容別発生件数

発 生 場 所	件 数
転倒・転落	60 件
裂傷・火傷	17 件
打撲・皮下出血	48 件
チューブ抜去	3 件
私物紛失	0 件
無断外出	0 件
異食・誤飲	4 件
誤薬	1 件
車輌事故	3 件
その他	15 件
合計	151 件

４．事故報告

・各事業所で事故等の発生後に原因の分析と検証を行い、また全職員で事故予防の意識を高める為､｢ひやりハット報告｣を一人２枚以上提出する取り組みを行って、発生件数については、平成２９年度が１５６件であったが、平成３０年度は１５１件に減少している。しかし、「転倒・転落」と「打撲・皮下出血」の発生件数が増えて来ていることと１０時から１１時と、夜間の２時から３時の時間帯に事故が多く発生しているため原因分析と検証を行い、対策を周知徹底して事故予防に取り組む。

Ⅳ　平成３０年度社会福祉法人東蒲原福祉会

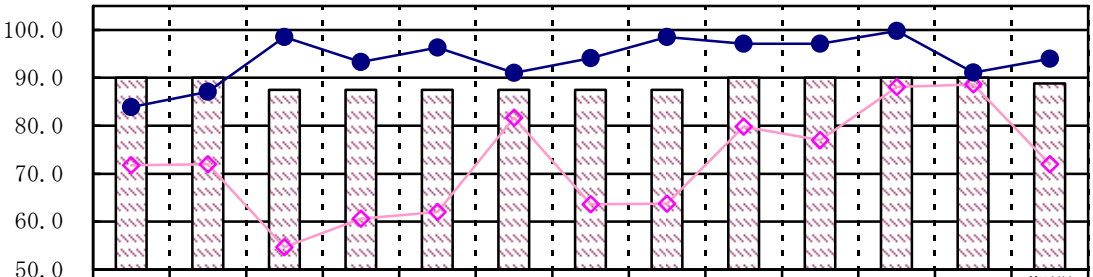
ケアセンターどんぐり　事業報告

	頁
１．短期入所生活介護事業（ショートステイ）	６７
２．訪問介護事業（介護保険）	７０
３．小規模多機能型居宅介護事業	７５
４．認知症対応型共同生活介護（グループホーム）	８０
５．障害福祉サービス事業（障害者自立支援）	８３
６．軽度生活支援事業	８３
７．閉じこもり予防ケア訪問事業	８３
８．高齢者生活調査事業	８３
９．まごの手サービス（介護保険外事業）	８４
10．ケアセンターどんぐり研修報告	８６
11．ケアセンターどんぐり災害対策	８８
12．ケアセンターどんぐり苦情受付・対応報告	８９
13．ケアセンターどんぐり事故等発生状況報告	９２

1　短期入所生活介護事業

1. 施設利用稼働率

（単位：%）



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	期間平均
計画稼働率	90.0	90.0	87.5	87.5	87.5	87.5	87.5	87.5	90.0	90.0	90.0	90.0	88.8%
平成29年度	71.8	72.0	54.7	60.6	62.0	81.7	63.6	63.8	79.8	77.0	88.1	88.6	72.0%
平成30年度	83.9	87.1	98.5	93.3	96.3	91.0	94.1	98.5	97.1	97.1	99.8	91.1	94.0%

※稼働率について

・短期入所の 1 日定員（20 人）を 100%とした場合の、実利用者の割合を表します。
1 年間の延べ利用日数が 6,861 日であったことから

6,861 日 ÷ 7,300 日〈 20 人× 365 日 〉 ＝ 0.9398　稼働率 94.0%

（延べ利用日数）　　（定員）（実稼働日数）

2. 要介護度別利用延べ日数

	要支援		要介護度					計
	1	2	1	2	3	4	5	
平成 29 年度	377	85	867	1,310	1,186	1,594	353	5,772 日
平成 30 年度	259	283	911	2,157	1,242	1,336	673	6,861 日

3. 月別利用者数

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	平均
実利用者数	35	41	42	41	46	44	42	46	43	36	38	36	41 人
延べ利用日数	503	540	591	582	597	546	583	591	602	602	559	565	572 日

4. 平均介護度及び平均利用日数（期間平均）

	要 支 援		要 介 護	
	平均介護度	利用者1人あたり月平均利用日数	平均介護度	利用者1人あたり月平均利用日数
平成 29 年度	1.21	10.5 日	2.63	13.2 日
平成 30 年度	1.56	12.3 日	2.68	14.1 日

5. 要介護度状態の変化（平成 31 年 3 月にご利用されている方を対象とします。）

内容	要支援	要介護
改善	1人	3 人
維持	3 人	25 人
悪化	0 人	4 人
合計	4 人	32 人

6. 年間行事報告

月　別	実施行事	内　　容
4 月 16 日 ～19 日	花見	・城山公園と角神へ行き、桜を眺め気分転換を図った。
7 月 23 日	バスハイク	・安田のサントピア牧場へ行き、馬やダチョウ等を見て写真撮影を行った。
9 月 30 日	敬老会	・式典と祝賀を行い、余興では「わらび会」による踊りを観賞する。
11 月 10 日	秋の収穫祭	・さんまや焼き芋を炭火で焼き、栗ごはんなど秋の味覚を堪能していただいた。地域の方々を招いてカラオケを一緒に歌った。
12 月 25 日	クリスマス忘年会	・職員による獅子舞と二人羽織を見て楽しんでいただき、職員がサンタクロースになってご利用者にプレゼントをお渡しした。手作りのケーキを食べていただいた。
2 月 4 日	節分	・鬼に扮した職員が事業所を回り、ご利用者に豆まきをしていただいた。
3 月 3 日	雛祭り	・雛壇を設置し、鑑賞や写真撮影を行い、おやつに雛あられを食べていただいた。

7. 事業報告（総括）

ご利用者が持っている能力を維持できるよう、個々の心身の状況に合わせケアを実施します。	
取　組　事　項	①ご利用者の心身の状況や援助内容を把握し、ご家族や関係機関、利用している福祉サービスと情報の共有に努めます。 ②収集した情報を職員全体で共有し、ケアの統一を図ります。
実　　績	①ご利用者の状態変化や確認のためご家族や各関係機関と情報の共有を行った。 ②毎月の会議でご利用者個々の状態変化やケアについて情報共有を図ったが、職員間の情報交換が少なくご家族の要望など細かな部分での共有が行えなかった。

課題と今後の取組	・ご家族からの要望はケアの中心的な部分であるため、関係機関との情報共有も含めた伝達体制を整備し周知徹底を図ります。また、職員間の情報交換を毎日の申し送りや毎月の会議を活用し共有します。

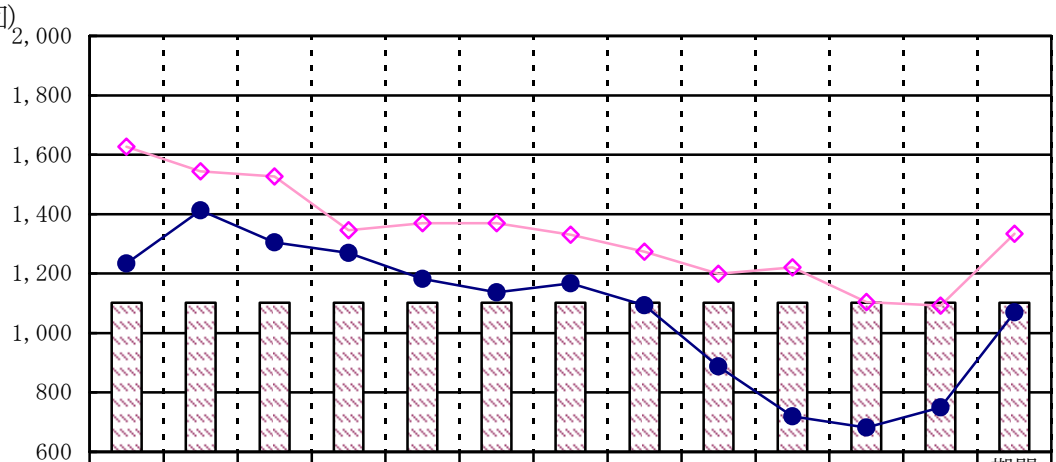
介護技術の向上を目指し、基礎的な知識・技術の再確認を行い、職員一人ひとりのスキルアップに取り組みます。	
取　組　事　項	①全職員で基本的な介護の方法を学び、観察力や対応力を身につけ、介護技術の向上を図ります。 ②勉強会を計画し、経験豊富な介護職員から、対人援助・介護技術を学びます。
実　　績	①食事や排泄、入浴や心身の状況について、お世話ではなくケアにつながる観察や対応を行い介護技術の向上が図れた。 ②勉強会は計画できなかったが、9 月～12 月の 4 ヶ月間、東蒲の里へ5名の職員が研修に行き、経験豊富な職員から援助技術を学ぶことができた。
課題と今後の取組	・介護の技術の向上と専門性を身につけるため研修への参加や資格取得に取り組みます。

ご利用者が楽しく、いきいきと生活できるよう、行事やレクリエーションを計画し実施します。	
取　組　事　項	①ご利用者の外出や地域行事への参加を積極的に行います。 ②ご利用者が自宅や施設にこもりきりにならないよう、地域との交流の機会を確保します。 ③ご利用者の身体状況に合わせた支援ができるよう、職員育成・指導に力をいれます。
実　　績	①散歩やドライブなど外出の機会はあったが、地域行事への参加は計画、実施ができなかった。 ②園内の周りや施設周辺など散歩に出かけ、屋内にこもりきりにならないよう支援した。 ③ご利用者の身体や精神面に合わせた話し方や介助方法を個別に指導を行った。
課題と今後の取組	・地域行事の予定を年間計画に組み込み、各担当者が予定に合わせ企画し、全職員で協力して実施するよう取り組みます。

2　訪問介護事業(介護保険)

1．訪問介護月別実績状況

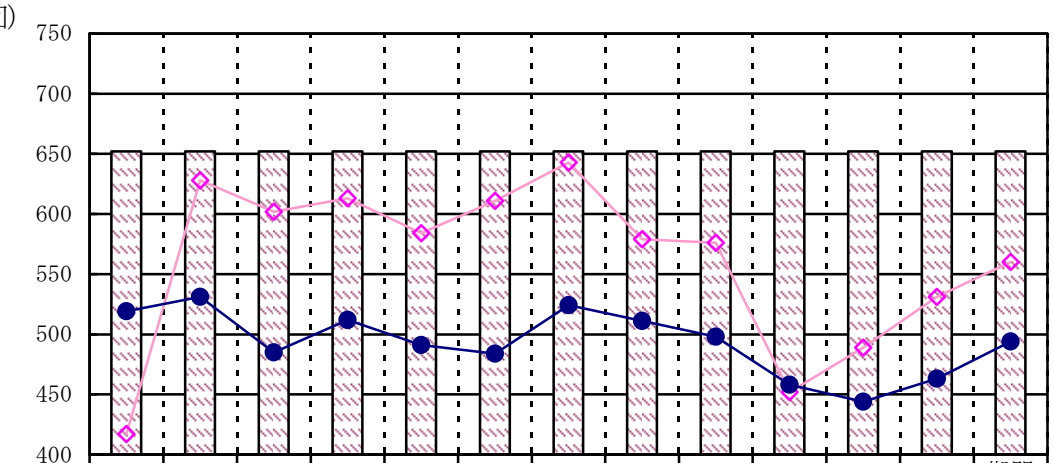
(単位：回)



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	期間平均
計画利用回数	1,102	1,102	1,102	1,102	1,102	1,102	1,102	1,102	1,102	1,102	1,102	1,102	1,102
平成29年度	1,627	1,544	1,527	1,346	1,370	1,370	1,331	1,274	1,199	1,221	1,104	1,092	1,334
平成30年度	1,234	1,413	1,305	1,269	1,182	1,137	1,167	1,094	888	720	682	750	1,070

2．予防訪問介護月別実績状況(事業対象者利用回数含む)

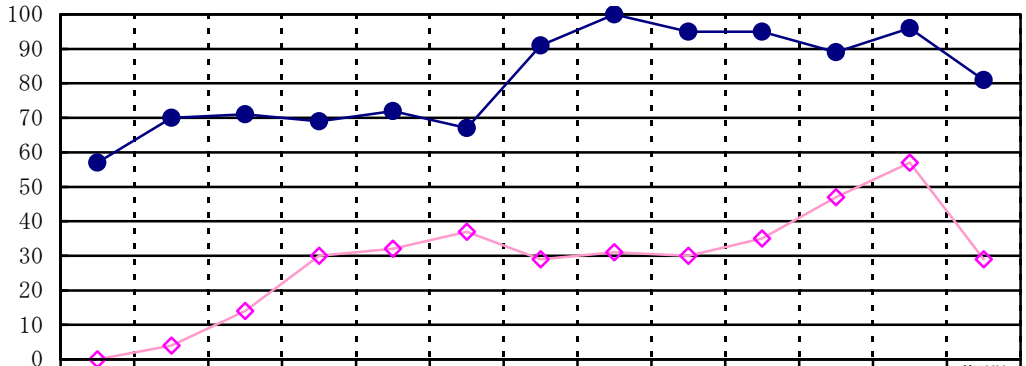
(単位：回)



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	期間平均
計画利用回数	652	652	652	652	652	652	652	652	652	652	652	652	652
平成29年度	417	628	602	613	584	611	643	579	576	452	489	531	560
平成30年度	519	531	485	512	491	484	524	511	498	458	444	463	494

3. 事業対象者月別実績状況

（単位：回）



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	期間平均
計画利用回数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
平成29年度	0	4	14	30	32	37	29	31	30	35	47	57	29
平成30年度	57	70	71	69	72	67	91	100	95	95	89	96	81

4. 月別利用状況（予防訪問介護事業、事業対象者含む）

月別区分	利用者数	利用状況			稼働率
		予約	キャンセル	実績	
4 月	178 人	1,956 回	146 回	1,810 回	92.5%
5 月	181 人	2,162 回	150 回	2,014 回	93.2%
6 月	170 人	2,057 回	196 回	1,861 回	90.5%
7 月	176 人	2,026 回	176 回	1,850 回	91.3%
8 月	171 人	1,992 回	247 回	1,745 回	87.6%
9 月	173 人	1,840 回	152 回	1,688 回	91.7%
10 月	174 人	1,918 回	136 回	1,782 回	92.9%
11 月	175 人	1,850 回	145 回	1,705 回	92.2%
12 月	164 人	1,677 回	196 回	1,481 回	88.3%
1 月	149 人	1,453 回	180 回	1,273 回	87.6%
2 月	148 人	1,281 回	66 回	1,215 回	94.8%
3 月	151 人	1,435 回	126 回	1,309 回	91.2%
計	2010 人	21,647 回	1,916 回	19,733 回	91.1%
月平均	168 人	1,804 回	160 回	1,644 回	―

※稼働率について

訪問介護事業の予約数を 100%として、それに対して実際に利用した実績がどの程度の割合かを表します。

利用実績が 19,733 回で、予約数が 21,647 回であったため、

19,733÷21,647＝0.9114　稼働率 91.1%

5. 利用者状況の変化

月区分	新規利用者	利用中止				
		施設入所	事業所変更	死亡	その他	計
4 月	8 人	0 人	0 人	2 人	0 人	2 人
5 月	5 人	2 人	0 人	0 人	0 人	2 人
6 月	4 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
7 月	7 人	0 人	0 人	0 人	7 人	7 人
8 月	10 人	0 人	2 人	3 人	1 人	6 人
9 月	4 人	3 人	0 人	2 人	0 人	5 人
10 月	6 人	0 人	1 人	1 人	4 人	6 人
11 月	11 人	2 人	0 人	2 人	2 人	6 人
12 月	7 人	2 人	1 人	2 人	3 人	8 人
1 月	5 人	2 人	0 人	3 人	0 人	5 人
2 月	2 人	1 人	1 人	0 人	1 人	3 人
3 月	4 人	0 人	0 人	2 人	0 人	2 人
計	73 人	12 人	5 人	17 人	18 人	52 人

6. 要介護度別利用延べ回数

	事業対象者	要支援		要介護度					計
		1	2	1	2	3	4	5	
平成 29 年度	346	3,891	2,834	4,474	3,162	528	3,313	3,858	22,406 回
平成 30 年度	972	3,898	2,022	3,993	2,397	1,117	2,547	2,787	19,733 回

7. 平均介護度及び平均利用回数(期間平均)

	要 支 援		要 介 護	
	平均介護度	利用者1人あたり月平均利用回数	平均介護度	利用者1人あたり月平均利用回数
平成 29 年度	1.34	6.3 回	2.57	14.9 回
平成 30 年度	1.27	6.3 回	2.40	15.1 回

8. 事業報告（総括）

阿賀町における地域コミュニティーの一員として、これまで培われた介護技術や知識を還元し、地域福祉の向上に努めます。	
取　組　事　項	① 地域行事に参加します。 ② 地域住民を対象とした介護教室を開催します。 ③ 自宅で最期を迎えることを希望されるご利用者やご家族の意向に寄り添えるよう、医療機関や関係機関との連携を強化します。
実　　績	① 地域の清掃活動に参加した。また、秋の味覚際では参加された地域住民やご家族と交流を図ることができた。 ② 介護教室の開催はできなかったが、在宅での介護技術に不安があるご家族に対し自宅へ訪問し介護技術指導や安全に身体に負担なく在宅介護が継続できるよう、生活環境の提案を行った。 ③ 2件の在宅看取りを医療機関、他在宅サービスと連携し実施した。
課題と今後の取組	・地域のサロンに参加し、介護が必要になっても、ヘルパー等の在宅サービスを利用することで、住み慣れた自宅で生活していくことが可能であること、在宅介護の悩みや不安に対する技術指導や助言も可能であることなどヘルパーについて、より多くの住民の方に知っていただけるよう取り組みを行う。 ・訪問介護が関わった在宅看取りの事例をまとめ、居宅支援事業所や病院、ご家族に向けて配布し、訪問介護を受けることで、医療と福祉に支えられながら在宅での看取りが可能であることを知っていただけるよう取り組みを行っていく。

多様化する様々な福祉ニーズに応えられるよう専門職として自己研鑽に努めます。	
取　組　事　項	① 地域医療と連携を密にし、終末期や医療依存度の高いご利用者でも住み慣れた自宅で過ごせるよう研修を実施します。 ② 個別年間目標を設定し、技術や知識の習得に努めます。
実　　績	① 地域包括支援センター及び、県立津川病院に阿賀町の看取りの現状と訪問介護の役割りについて、それぞれの立場から意見をいただいた。 また、2月15日に開催された、在宅看取り研修会にサービス提供責任者が6名参加し、阿賀町の在宅看取りについて、現状と課題を共有することができた。 ② 個別研修計画に沿って研修に参加し復命会で3名の職員が復命した。

課題と今後の取組	・法人内の在宅サービス事業所間で、在宅看取りの課題の共有と連携について協議していく。 ・多くの職員が外部研修に参加することができ、目標を達成できるよう調整する。

心身機能を維持し自信を持って自宅で暮らしていけるよう支援します。	
取　組　事　項	① ご利用者の持っている力に気づき、専門的視点で根拠あるケアが実践できるよう、訪問介護の専門性について学びます。 ② 記録用紙の見直しを行い、記録方法の統一を図ります。
実　　績	① 月に1回の地区検討会において、訪問時の様子をモニタリングし評価した。その際、サービス内容に対する根拠についてサービス提供責任者から助言、説明を行いケア内容の統一を図った。 ② 記録の仕方についての外部研修に1名が参加し復命会で内容を周知した。また、訪問日が変更になった情報を管理する様式を作成した。
課題と今後の取組	・自立支援や科学的根拠に基づいたケアが実践されているか振り返りを行う機会を設け、訪問介護を受けることで、ご利用者が自分でできていることを継続できたり、できることが増える可能性を見出す専門的視点を養い、ケアが実践できるよう意識を統一していく。 ・記録方法や内容について、定期的に勉強会を行い記録の統一を図る。また、現在作成している書類等に不必要なものがないか検討し書類作成業務の軽減を図る。

3 小規模多機能型居宅介護事業

1. 介護度別登録者数

介護度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
要支援1	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	4	4.9人
要支援2	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3.0人
要介護1	7	6	7	7	9	8	8	8	8	8	10	9	7.9人
要介護2	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0.3人
要介護3	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	3	2.1人
要介護4	4	5	5	5	5	4	4	4	3	3	2	2	3.8人
要介護5	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	3	2.0人
合 計	23	23	24	24	27	25	25	24	23	23	24	24	24.1人
稼働率	92.0	92.0	96.0	96.0	108	100	100	96.0	92.0	92.0	96.0	96.0	96.3%

※稼働率について

小規模多機能居宅介護事業の登録定員(25 人)を 100%とした場合の実登録者の割合を表しています。1 年間の延べ利用者数が 289 人であったことから

(289 人) ÷ (300 人)＝0.963 稼働率 96.3%

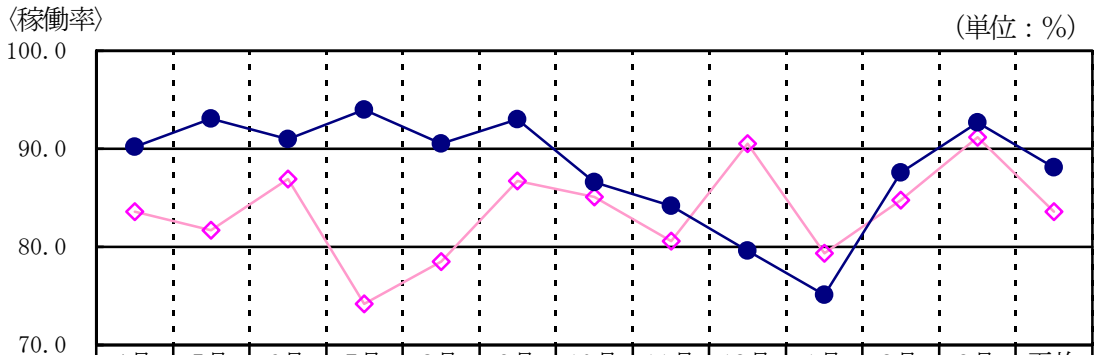
(実登録者数) (登録定員 25 人)

2. サービス別稼働率

(1)訪問サービス

月別区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
実利用者数(平成29年度)	2	4	4	9	5	5	8	7	7	10	10	12	6.9人
実利用者数(平成30年度)	11	11	10	10	12	12	12	12	12	12	9	9	11人
延べ利用回数(平成29年度)	24	103	145	135	225	169	217	223	241	274	222	278	188回
延べ利用回数(平成30年度)	209	204	204	221	232	257	250	190	174	163	101	134	195回

(2) 通いサービス



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
平成29年度	83.6	81.7	86.9	74.2	78.5	86.7	85.1	80.6	90.5	79.4	84.8	91.2	83.6%
平成30年度	90.2	93.1	91.0	94.0	90.5	93.0	86.6	84.2	79.6	75.1	87.6	92.7	88.1%

※稼働率について

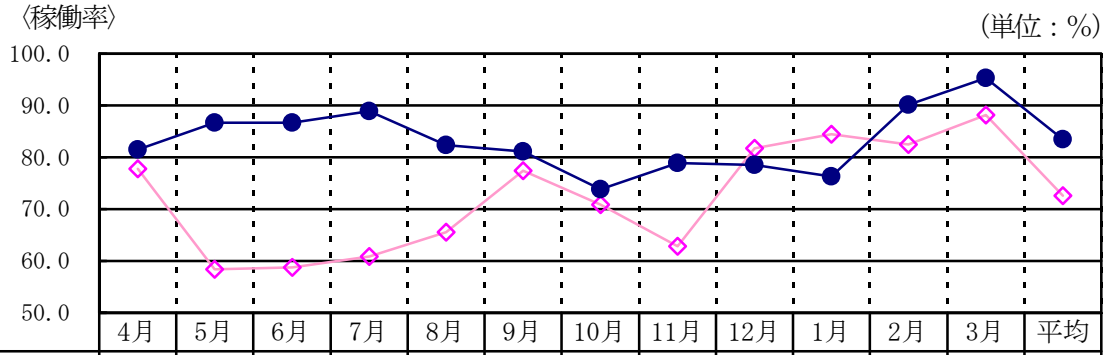
通いサービスの 1 日定員(15 人)を 100%とした場合の、延べ利用者数の割合を表します。

1 年間の延べ利用人数が 4,823 人であったことから

4,823 人　÷5,475 人(15 人×365 日)　＝　0.8809　稼働率 88.1%

(延べ利用人数)　(定員)　(実稼働日数)

(3) 泊まりサービス



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
平成29年度	77.8	58.4	58.8	60.9	65.5	77.4	70.9	62.9	81.7	84.5	82.5	88.1	72.6%
平成30年度	81.5	86.7	86.7	88.9	82.4	81.1	73.8	78.9	78.5	76.3	90.1	95.3	83.4%

※稼働率について

泊まりサービスの 1 日定員(9 人)を 100%とした場合の、延べ利用者数の割合を表します。

1 年間の延べ利用人数が 2,737 人であったことから

2,737 人　÷　3,285 人〈9 人×365 日〉＝0.833　稼働率 83.3%

(延べ利用人数)　(定員)　(実稼働日数)

3. 平均介護度(期間平均)

	要 支 援	要 介 護
平成 29 年度	1.22	2.29
平成 30 年度	1.38	2.50

4. 年間行事報告

月　別	実施行事	内　　容
4 月 5 日 12 日、20 日	観桜会 ドライブ	・角神まで行き桜の花を眺めながら散歩や、茶話会で気分転換を図った。
5 月 3 日	狐の嫁入り見学	・花嫁、花婿の東蒲の里への訪問を見学。花嫁、花婿に声をかけ、感動している様子がうかがえた。
6 月 1 日 6 月 9 日	百寿の祝い 七福荘祭り	・百歳を迎えられたご利用者のお祝いを、ご家族を招き小規模ホールにて行った。町長からの表彰、祝辞をいただき記念撮影を行う。 ・七福荘のお祭りを見学した。
7 月 15 日	阿賀町、西会津町民謡合同発表会	・文化福祉会館に民謡発表会を見学。
8 月 12 日	夏祭り	・屋台にてカキ氷やわたあめなど振る舞い地域の方との交流、余興を楽しんでいただいた。
9 月 30 日	敬老会	・式典と祝賀を行い、ボランティアによる余興で楽しんでいただいた。
10 月 15 日	バスハイク	・福島県野沢「道の駅」に出かけ、買い物、買ったものを食べていただき楽しまれた。
11 月 10 日	秋の味覚祭り	・秋刀魚やさつま芋のバーベキューなど秋の食を振る舞い、ご利用者やご家族、地域の方を招いて余興やカラオケで楽しんでいただいた。
12 月 26 日	クリスマス忘年会	・さざなみ会による歌を楽しみ、午後からクレープを作り食べていただいた。職員がサンタクロースになってご利用者にプレゼントをお渡しした。
2 月 4 日	節分	・鬼に扮した職員が事業所を回り、ご利用者に豆まきをしていただいた。
3 月 1 日 ～3 日	ひな祭り	・雛壇を設置し、鑑賞や写真撮影を行った。

5. 事業報告（総括）

ご利用者の自立を考えながら、多機能を活かした支援を行います。	
取　組　事　項	①ご利用者の目標を明確にし、個別援助計画の充実を図ります。 ②多様なサービスが提供できるよう業務、勤務体制の見直しを行います。 ③地域医療との連携を図り、ご利用者の心身の健康を支えます。
実　　績	①ご利用前の面接で得た情報の共有や、状態変化があった場合について目標の見直しを行い、シートやミーティングにて職員の共有を図ったが、根拠についての説明が不足していたためケアの内容について統一できていない部分が見られた。 ②登録利用者の変更や、ご利用者状況の変更に伴う訪問や業務について、常に改善する意識を持ち、ご利用者の意向に沿えるよう対応した。 ③体調の変化や、入退院時の情報、在宅でのご利用者情報を医療機関と共有した。
課題と今後の取組	・ご利用者個々の目標や、細かなケアについての根拠を理解し、職員全員が統一されたケアの提供ができるようミーティング会議内容を見直す。

地域との交流を大切にし、地域に周知され、相談しやすい事業所を目指します。	
取　組　事　項	①地域行事に参加します。 ②運営推進会議を活かし、事業所自己評価や会議で出た意見の改善に取り組みます。 ③ご家族や地域の方に施設行事に参加していただく機会を設けます。
実　　績	①地域へのお祭りや、町の行事への参加を計画、外出の機会を設け交流を図った。 ②推進会議の開催を事業所にて行い、ご利用者の様子や活動を理解していただくことができた。運営推進会議での意見や取り組みを職員に周知できていなかったため、評価や、改善につながらなかった。 ③施設行事、夏祭りや秋の味覚祭に参加していただくことができた。
課題と今後の取組	・地域交流の継続、運営推進会議の活用で参加メンバーだけではなく、事業所スタッフ全員が地域交流を意識した支援が行えるよう検討する。

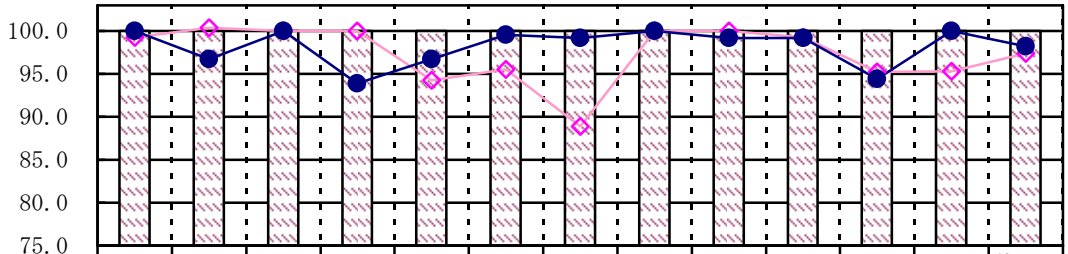
ご利用者の日常生活が充実したものとなるよう、職員一人ひとりが専門職として自己研鑽に努めます。

取　組　事　項	①認知症ケア、介護技術、対人援助技術、生活支援全般に関する研修への参加や研修会を計画し実施します。 ②個別年間目標を立て、技術や知識の習得に努めます。
実　　績	①介護福祉士実務者研修への参加、小規模多機能型居宅介護サービスの理解について外部研修に参加した。阿賀町包括支援センター主催のリハビリ研修に参加することができた。 また、月に１度開催する事業所内会議において、その都度、課題となった様々な支援について研修を実施した。 ②目標や取り組みへの具体化が不足し、職員個々の評価を実施することができなかった。
課題と今後の取組	・資格取得への取り組みの継続、小規模多機能型居宅介護サービスについて、職員が理解できるよう研修への参加や勉強会を開催する。

４　認知症対応型共同生活介護（グループホーム）

1. 施設利用稼働率

（単位：%）



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	期間平均
計画稼働率	100.	100.	100.	100.	100.	100.	100.	100.	100.	100.	100.	100.	100.
平成29年度	99.3	100.	100.	100.	94.3	95.6	88.9	100.	100.	99.3	95.2	95.3	97.4
平成30年度	100.	96.7	100.	93.9	96.7	99.6	99.2	100.	99.2	99.2	94.4	100.	98.2

※稼働率について

認知症対応型共同生活介護事業所の 1 日定員(9 人)を 100%とした場合の、実利用者の割合を表します。1 年間の延べ利用日数が 3229 日であったことから

3229 日 ÷ 3,285 日〈 9 人× 365 日 〉 ＝ 0.9824　　稼働率 98.2%

（延べ利用日数）　　（定員）（実稼働日数）

2. 要介護度別入所者数(平成 31 年 3 月 31 日現在)

	要支援	要介護度					平均
	2	1	2	3	4	5	
平成 29 年度	1	3	3	0	1	1	2.04
平成 30 年度	0	2	4	1	1	1	2.44

3. 事業報告(総括)

ご利用者の有する能力に応じた自立した生活を送れるよう支援します。	
取　組　事　項	① ご利用者が役割を持って生活出来るよう、ご利用者に応じた日

	常生活上の目標を設定します。 ② 個別支援が出来るようにご利用者の心身の状態や有する能力の把握に努めます。
実　　績	① ご利用者のADLを全職員で共有し、日常生活に活気が持てるよう各ご利用者の目標設定を行った。 ② ご利用者のADL維持及び向上のため、過去の生活歴や趣味等を全職員が把握しコミュニケーション等の研修を基に個別支援に取り組んだ。
課題と今後の取組	・ 職員がご利用者の特性を知ることで、ご利用者一人ひとりの趣味等を活かした個別のレクリエーションに取り組めるよう支援していく。

認知症の進行を緩和しご利用者が穏やかな生活を送れるように支援します	
取　組　事　項	① 認知症の症状に合わせた対応が出来るように認知症実践者研修など外部研修への参加や内部研修を計画的に実施し認知症のケア専門職としてスキルの向上を図ります。 ② ご家族及びご利用者の相互理解を深め、ご家族と共にご利用者を支えていけるよう情報の交換ができる関係を構築します。
実　　績	① 外部研修に参加した職員から、認知症周辺症状・中核症状の対応に関しての研修があり、全職員が同じ内容を理解し知識の習得、向上を図ることができた。 ② 受診同行や面会に来られたご家族に対し、ご利用者の日常生活状況をお伝えすると共に連携ノートを活用した情報交換を行い、ご家族との関係を維持することができた。 ③ 運動レクリエーションやカラオケなど、ご利用者に楽しんで貰えるレクリエーションを全職員が再認識することができた。外出は郡内だけでは無く、新潟市内の水族館や飲食店にも足を運びご利用者の気分転換を図ることができた。
課題と今後の取組	・ 認知症のご利用者様が穏やかな生活を送れるよう、全職員が更なる知識の習得と質の向上を図れるよう、研修や勉強会に積極的に参加し、日々の支援に活かしていく。

ご利用者の身近な存在として迅速に対応出来るよう取り組みを行います。	
取　組　事　項	① 医療機関や関係機関との連携を図り病状や状況についての情報を収集します。
実　　績	① 医療機関・関係機関等と連携を図り、ご利用者の病状・状況を全職

	員に周知し悪化を防ぐことができた。
課題と今後の取組	・ ご利用者の既往歴や処方薬を再確認し情報収集の徹底を継続する。

5 障害福祉サービス事業

1. 月別利用状況

月別区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計

実利用者数	18	17	17	18	18	18	17	16	17	17	16	16	205 人
延べ利用回数	278	285	281	300	285	273	283	248	247	236	220	254	3,190 回

6 軽度生活支援事業

1. 月別利用状況

月別区分	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10月	11月	12月	1 月	2 月	3 月	計
実利用者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0 人
延べ利用回数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0 回

7 閉じこもり予防ケア訪問事業

1. 月別利用状況

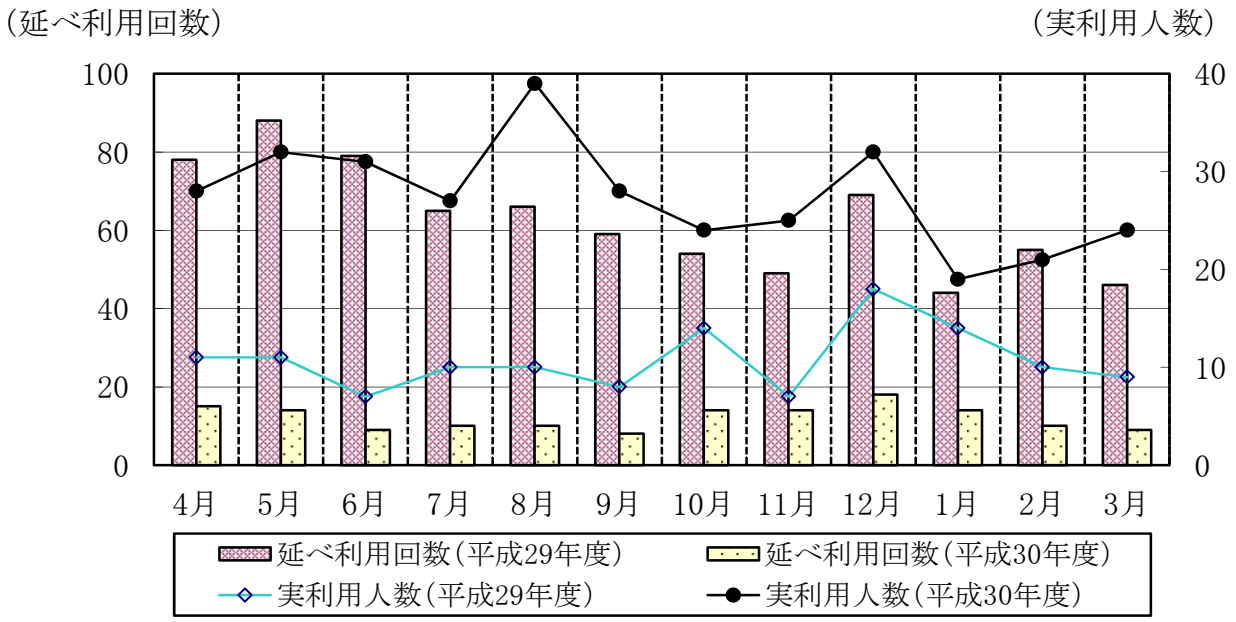
月別区分	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10月	11月	12月	1 月	2 月	3 月	計
実利用者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0 人
延べ利用回数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0 回

8 高齢者生活調査事業

月別区分	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10月	11月	12月	1 月	2 月	3 月	計
件数	0	0	0	98	77	66	0	0	132	0	0	0	373 件

9 まごの手サービス （介護保険外事業）

1. まごの手サービス 事業利用状況



月別区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
実利用人数（平成29年度）	28	32	31	27	39	28	24	25	32	19	21	24	330 人
実利用人数（平成30年度）	11	11	9	10	10	8	14	7	18	14	10	9	131 人
延べ利用回数（平成29年度）	78	88	79	65	66	59	54	49	69	44	55	46	752 回
延べ利用回数（平成30年度）	15	14	9	10	10	8	14	14	18	14	10	9	145 回

2.「見守り確認」安心サービス利用状況

月別区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
実利用人数	8	9	9	8	8	6	6	7	7	8	8	8	92 人
延べ利用回数	248	298	299	254	225	211	211	259	312	246	273	266	3,102 回

3. 事業報告（総括）

家族が離れて暮らしていても、介護保険のサービスと見守り確認安心サービスを組み合わせて利用することで、在宅生活の継続が可能であることを提案します。

取　組　事　項	①居宅支援事業所や、ご利用者、ご家族に新しいサービス内容を記載したパンフレットを作成し配布します。
実　　績	①新しいサービス内容を記載したパンフレットを作成し居宅支援事業所に説明し配布した。 ご利用者やご家族にもパンフレットを送付し、前年度までまごの手サービスを利用していたご利用者やご家族には口頭での説明も付け加えお知らせした。
課題と今後の取組	・新しいまごの手サービスの内容は在宅サービス利用中の受診介助となっているが、それ以外の介護保険外サービスについて問い合わせがあるため、ニーズの把握を行い今後のサービス内容の検討を行っていく。

在宅サービスを利用中に家族が対応できない受診介助を行い、家族の負担軽減を図ります。	
取　組　事　項	①ご利用者の日々の様子や医療機関への伝達事項を記載する様式を作成します。
実　　績	① 様式の検討を行ったが、現在阿賀町の在宅介護サービスを利用している方に配布されている連携ノートに詳しく記載し、受診時に持参することで、日々の様子が伝達できること、新たに様式を作成すると、連携ノートに記載する内容と重なるため連携ノートを活用している。
課題と今後の取組	・スムーズな受診介助が行えるよう在宅サービス事業所と連携を図っていく。

10 ケアセンターどんぐり 研修報告

1. 研修種別の内訳

項　目	内　　容	主 な 研 修

技術向上 人材育成	職務を遂行するための技術及び質の向上を目的とした研修 指導的立場にある職員が指導、育成するための技術を学ぶ研修	新潟県小規模多機能型居宅介護事業者協議会
		平成30年度企画研修　第1回研修会
		障害福祉関係施設長研修
		安全運転管理者等講習会
		福祉施設安全管理者研修
		平成30年阿賀町地域リハビリテーション研修
		平成30年度ホームヘルパー研究大会
		学校及び社会福祉施設の食品取り扱者衛生講習会
		小規模多機能型居宅介護事業所地区研修会
		平成30年度認知症ケア・対応研修
		サービス責任者研修
		平成30年度訪問介護事業所集団指導
		新潟県小規模多機能型居宅介護サービス普及セミナー
		訪問介護計画作成・展開研修
		平成30年度異業種研修
		平成30年度新潟県福祉サービス第三者評価事業者説明会
		認知症実践者研修
		平成30年度介護老人福祉施設等集団指導
		平成30年度全国老人福祉施設研究会議
		平成30年度同業種研修
		平成３０年度関東ブロックカントリーミーティング
		阿賀町在宅看取り推進のための研修会
		障害者総合支援法等関係説明会

2. 内部研修参加状況

開　催　日	研　修　名	対象職員（人）	参加者数（人）	出席率（%）

平成 30 年 5 月 29 日	腰痛予防研修（支所研修）	28	24	86
平成 30 年 6 月 28 日	法令遵守、個人情報保護法 認知症研修 QCのサービス管理向上	71	59	83
平成 30 年 7 月 10 日 平成 30 年 7 月 11 日 平成 30 年 7 月 12 日	救急法講習会	71	63	89
平成 30 年 8 月 29 日	身体拘束について	71	56	79
平成 30 年 9 月 21 日	腰痛体操	71	47	66
平成 30 年 10 月 9 日 平成 30 年 10 月 10 日 平成 30 年 10 月 11 日 平成 30 年 10 月 12 日	調理実習	38	36	95
平成 30 年 11 月 1 日 平成 30 年 11 月 2 日	吐物処理	69	56	81
平成 30 年 12 月 19 日	交通安全講話	69	52	75
平成 31 年 1 月 30 日	火災予防について	69	50	72
平成 31 年 2 月 27 日	復命会	68	57	84

3. 研修報告（総括）

①外部研修

・外部研修受講者からの復命を受けることで、新しい情報や技術を身につけサービスの向上につなげることができた。

②内部研修

・内部研修では年間計画を作成し、定期的に研修を行うことで個々のスキルアップにつなげることができた。

11 ケアセンターどんぐり 災害対策

1. 防災伝達・避難訓練

開催月日	訓 練 内 容	参加者数
6 月 26 日	防災伝達訓練 ・夜間に緊急連絡網を使用し、伝達訓練を行った。	72 名
7 月 20 日	避難訓練 ・阿賀町消防署員立ち会いのもと、職員、ご利用者参加による避難訓練を実施した。	26 名 (職員) 20 名 (利用者)
12 月 7 日	夜間想定避難訓練 ・阿賀町消防署員立会いのもと、職員による避難訓練を実施した。悪天候によりご利用者の参加は中止とした。	17 名

2. 消防設備点検

開催月日	点 検 内 容
毎月、防災委員で表を用いて、自主点検を行っている。	消化器具、自動火災報知設備、消防局火災報知設備、非常警報器具及び設備、誘導灯及び誘導標識、非常電源(自家発電設備)

3. 作成

作成日	内 容
4 月 1 日	災害時対応マニュアルの改訂を行った。 防災(防火・震災等)計画作成。
10 月 1 日	緊急連絡網の連絡経路を一部修正し職員に配布

4. その他

・6月7日 阿賀町消防署立会い検査実施。

12 ケアセンターどんぐり 苦情受付・対応報告

苦 情

＜訪問介護事業所＞

1. 利用者家族より

契約時、ご家族が遠方に住んでいるため、契約書一式と口座振替依頼書を郵送し返信してもらうことにしていた。ご家族から契約書一式のみ返送され口座振替依頼書が返信されなかったため、再度口座振替依頼書を郵送した。

その後、ご家族より「既に銀行へ口座振替依頼書を提出しているのに、また郵送されてきた。どういうことなのか？」という電話があった。

・銀行に確認すると、口座振替依頼書は提出されており、ご家族が銀行で手続きをされていたことがわかった。郵送した封筒に返信していただく書類について一言添えることで避けられたことであり、不手際について謝罪した。

・郵送で書類のやりとりを行う際には、電話でわかりやすく内容を伝えるとともに、返信していただく書類について記したものを添えることとした。

＜要因：説明・情報不足＞

2. 地域住民より

「施設前の道路は、子供たちの通学路になっているため、車で通ってはいけないことは知っていますよね。今日ヘルパーの車が通った。夏休みでうちの子供が自転車で遊んでいるから危ない。施設ができた時から、車で通ってはいけないことは決まっていたはず。職員の皆さんに伝えていますか。」と電話があった。

・どんぐり開所時に車を走らせないと決めたことではないが、施設前の道路は通学路であるため通行の制限は行っていた。

誰でも通行できる町道ではあるが通学路であることから、再度車両での通行は行わないよう再度職員へ周知徹底した。

＜要因：説明・情報不足＞

3. 地域住民より

「とうかん福祉と書かれている車の運転マナーが悪すぎます。今まで我慢してきましたが、我慢の限界です。曲がるときにウインカーは出さないは、車間距離はつめて運転するは、一時停止はしないはで、社名も入っているのに。この間も上川でいきなり右折されて、後ろを走っていた私は、急ブレーキを踏みました。こんな運転を続けていると、事故にもつながるのでしっかりと指導してください。お願いします。」と電話があった。

・法人本部に電話があったとのことで、その場にて謝罪と、連絡をいただいたことへのお礼を伝えた。本部より施設長、課長に苦情内容についての報告があり、各サービス係長から、苦情内容と運転マナーを守るよう職員への周知を行った

＜要因：サービスの質＞

4. ご利用者家族より

「今日午後から訪問していただいたヘルパーさんが、ベッドをぐっと高くしたまま帰られたんですが、なぜでしょうか？何か理由があるのでしょうか？母は認知症で予想もつかない行動をするので、落ちたら怪我をしてしまいます。気をつけるようにお伝えください。」と電話があった。

・当該職員に確認を行うと「ベッドの高さを下げずに帰ってきたかもしれない。」とのことで

事実確認がとれたため自宅に訪問し謝罪した。
・訪問当日はご利用者の体調不良があり、通常時の訪問内容と異なる手順であった。
今後、通常と異なる手順の場合は手順の申し送りの確認をサービス責任者から伝え、
ご利用者の安全が確保されるよう、退出時に再確認する事を周知徹底した。
＜要因:サービスの質＞

5. ケアマネージャーより
「担当ご利用者のご家族より、ポータブルトイレに水を入れてくださいと何度も言っているのに入れてもらえない。ポータブルの中にティッシュが敷いてある。掃除機を使った後、廊下に出しっぱなしで危なかった。など、最近来始めたヘルパーさんは、お願いしたことをしてもらえない。」とケアマネに電話があった。

・ご本人とご家族にいつもと同じ手順で訪問できなかったこと、訪問した後にご家族にも迷惑をかけてしまったことを謝罪した。
・当該職員と訪問時の手順について振り返りを行った際、手順ではなく自己判断で行っていたこと、また掃除機の出しっ放しや、ベットの高さ調整については覚えていないとの言動があり注意した。
・サービス提供後、退室する際、手順の再確認を行うよう職員への周知を行った。
＜要因:サービスの質＞

＜小規模多機能＞
6. 利用者家族より
「2泊3日の泊まり利用を終え自宅に帰った際、おでこに青いアザがあり、痛みを訴えていたが連携ノートにも何も記載がなく、職員からの説明もなかったがどうしたんでしょう？
本人が1人でいたときにぶつけたんでしょうか？転んではいないですか？痛みがあるので、様子観察と注意をお願いします。」との電話があった。

・電話にて謝罪、様子観察と詳細の把握を行い、後日改善策も含め報告することを約束した。
・経緯や、原因が不明な場合でもご家族には速やかに報告を行うこと、また利用中の転倒等がなかったため、排泄動作やベッド上での寝返り、起き上がり等、ご本人が一人で行える動作についてのリスクを予測、検討を行い職員への周知を行った。後日、送迎の際に、予測された要因と、改善策についてご家族への説明を行った。
＜要因:サービスの質＞

苦情の発生件数

事　　業	件数
訪問介護	5件
短期入所	0件

苦情の発生原因

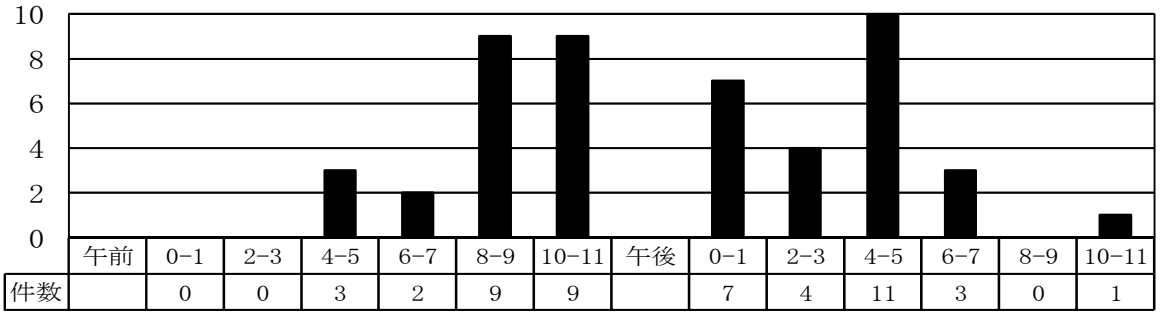
内容	件数
説明・情報不足	2件
職員の態度	1件

小規模多機能	1件		サービスの質	3件
グループホーム	0件		サービスの量	0件
合計	6件		権利侵害	0件
			合計	6件

13 ケアセンターどんぐり 事故等発生状況報告

1. 時間帯別発生件数

（単位：件数）



〈発生件数合計 49 件〉

2. 場所別発生件数

発 生 場 所	件 数
居室	8 件
ホール	8 件
トイレ	3 件
廊下・玄関	3 件
浴室	1 件
施設外	7 件
利用者自宅	18 件
その他	1 件
合計	49 件

3. 内容別発生件数

事 故 内 容	件 数
転倒・転落	9 件
裂傷	5 件
打撲・皮下出血	6 件
チューブ抜去	0 件
無断外出	0 件
私物紛失	0 件
異食・誤飲	1 件
誤薬・服薬忘れ	8 件
車輌事故	7 件
その他	13 件
合計	49 件

4.事故等発生状況総括

・事故発生件数については、平成29年度の40件から平成30年度は49件と増加しています。事故の内容については訪問事業、小規模事業での訪問サービスによるご利用者自宅での事故が

3件から18件と増加しています。訪問事業では、ご利用者の生活に支障のないよう、日用品の老朽化による破損等についても、報告、検討を行っていることが事故件数増加の要因になっています。

・施設内の事故については平成29年度16件だった居室内での事故が平成30年度は８件と半数に減少しています。事故発生後の原因の分析と検証を徹底したこと、職員の事故予防に対する気づく力の向上が事故減少の要因と思われる。今後も、事故原因の分析と検証、対策・対応を継続し、事故減少の取り組みを行って行きます。